

創立  
50  
周年

記念展示

『金色夜叉』縮刷一八〇版『武蔵国絵図』『保字金引替群集絵図面』  
『諸用扣(留)』渋沢栄一、帽子への愛着『招魂社綴』古典AR  
『絵本磯馴松』計量文体学 古典籍ネットワーク構造の推定とIR活用  
本とバラの日からのぞく読書文化史  
研究用データセットの共同利用のためのエコシステム  
デジタル技術による研究環境の発展

ようこそ、広大な書物の世界へ！

# こくぶんけん 推しの

『毎月抄』『素庵本三十六歌仙』『吉田臥竜軒詩文歴代詩文／六』『定家物語』  
『宇津保物語』『源氏かるた』『狭衣』『阿仏の文』『道行集』『無門関』  
『老のすさみ』『常盤鞍馬破』『西山物語』『随園食単』『武鑑』『絵本武者備考』  
『大阪書田会近世初期名作標本集』『古戦短歌』『薄遊漫載』

# 冊



50<sup>th</sup>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

National Institute of Japanese Literature

## ごあいさつ

国文学研究資料館は、今年で創立五〇周年を迎えます。半世紀に及ぶ年月の中で、わが館には、膨大な書籍、資料、情報が蓄積され、多くの方々の利用に供されてきました。近年では、日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画によって、三〇万点の古典籍をデジタル画像として収集し、公開することを目標として努力を重ね、まもなく実現しようとしています。二四時間、世界中からの利用が可能なわけです。こうしてどんどん便利になっていくのですが、それと同時に、実物を見たいという願望もまた強まってきます。本物に支えられてこそ、バーチャルな情報の価値も高まるものでしょう。今回館員たちに、当館の所蔵する古典籍の中から、これぞという「本物」を紹介してもらうことにしました。稀観<sup>きかん</sup>本だから、挿絵がきれいで、装訂が見事、学問的重要性等々、推す理由はさまざまですが、そこには、古典籍への私たちの思いが詰まっています。それはまた、当館を利用されてきた人々の、さらには、古典籍をいまに伝えてきた人々の思いへとつながっています。本を見るとは、そういう思いをも受け取っていくことなのでしょう。なにも難しいことはありません。本を見て楽しんでいただければ、必ずそういう思いにつながると信じています。

さあ、本物の世界へ、ようこそ。

国文学研究資料館長 渡部泰明



## 創立五〇周年記念展示について

西村慎太郎

創立五〇周年記念展示では次のようなコンセプトで展示を構成しています。

**第一章の「へ押し」の一冊**では当館に所属している日本文学、歴史学およびアーカイブズ学研究者が「押し」とする館蔵の作品を紹介するコーナーです。情報系研究者は日本文学と連携した研究を紹介しています。当館所属の研究者を知っていただくとともに、それぞれの研究者の個性について作品を通じて感じてください。

**第二章の「国文研をひらく」**では「自然を味わう」「あの人が書いた文字」「挿絵を楽しむ」「書物で国際交流」「古典と旅をする」「古典で遊ぶ」「今年記念を迎える本」というテーマを設け、展示ではあまり利用していない作品をご覧頂きたいと思っています。

**第三章の「国文研のこれまでとこれから」**は当館の歴史にまつわる資料を写真とともに振り返ります。今回は当館が創立した時の品川区戸越の建物の定礎に収められていた資料を主に展示します。

なお、この展示に当たっては人間文化研究機構人文知コミュニケーターである当館特任助教の糸汐里が全面的な構成を行いました。そして、当館の企画評価・広報係や事業係といった事務が作り上げたものです。手前味噌ながら、若手研究者や事務も含めて一丸となった特別展示を御堪能いただければと存じます。

## 凡例

目次	
ごあいさつ	2
創立五〇周年記念展示について	3
凡例	4
第一章 〈推し〉の一冊	5
第二章 国文研をひらく	39
第三章 国文研のこれまでとこれから	55
出品リスト	62
参考文献一覧	63

- ・本冊子は、国文学研究資料館の特別展示として、二〇二二年五月一日（金）から八月三十一日（水）まで、国文学研究資料館展示室において開催する「創立五〇周年記念展示 こくぶんけん〈推し〉の一冊」の展示解説である。
- ・作品キャプションおよび解説、出品リストの表記は、展示番号、作品名、時代（推定の場合は「」に記す）、員数の順に記載した。
- ・第一章は、二〇二二年二月末日の時点で当館への所属が決定している日本文学、歴史学およびアーカイブズ研究者らが紹介したい一冊を選び、その魅力について解説を行った。また情報系研究者は、日本文学と連携した研究を紹介した。
- ・第二章の作品解説は、当館の渡部泰明、入口敦志、西村慎太郎、糸汐里、黄昱が執筆した。
- ・第三章は、西村が解説および年表作成を担当した。
- ・編集責任 入口敦志（教授）  
西村慎太郎（教授）  
北村啓子（准教授）  
糸 汐里（特任助教）  
黄 昱（特任助教）

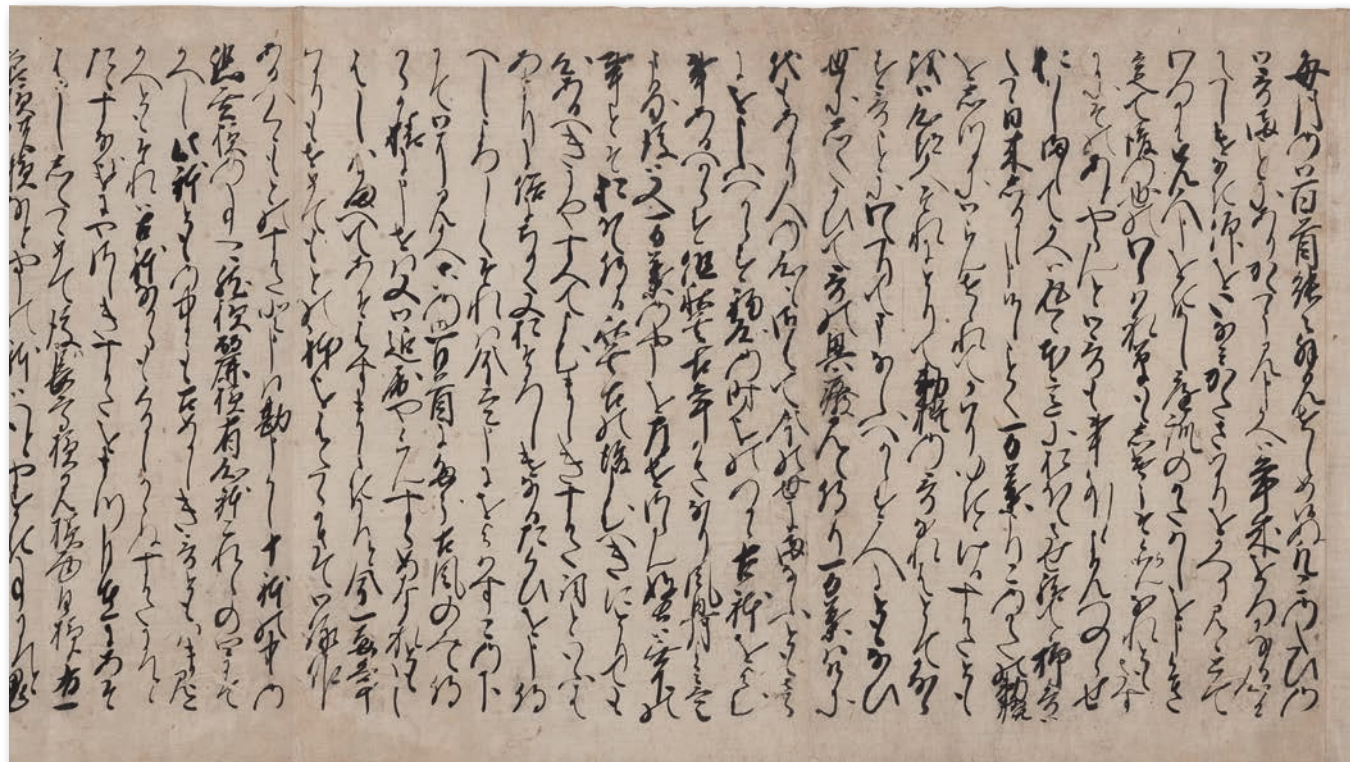


# 第一章〈推し〉の一冊

QRコードから  
〈推し〉の一冊紹介動画を  
ご覧いただけます！







1

まいげつしょう

## 『毎月抄』

▼推す人

渡部泰明 (館長)

探求意欲を

かきたてる

和歌の根本を

問う一冊

〈推し〉の一冊は、歌論『毎月抄』の、道増親王を伝称筆者とする卷子本です。  
ひはまつせんいち

久松潜一コレクションの中の一冊で、日本古典文学大系所収本の底本にもなっています。この歌論は一般に藤原定家の作といわれていますが、定家に仮託されたのではないという説があって、大論争となり、今もなお決着がついていません。ただしこの書は、定家の真作か偽物か、などという問題だけに閉

じ込めておくにはもったいないほど、豊かな内容を持っています。和歌はどう作ればよいのかという、根本的な問題を提起しているのです。この卷子本を見ると、問題探求への意欲がますます強くなってきました。

わたなべ・やすあき ▼ 藤原俊成や定家など、中世の和歌を研究してきました。最近では和歌はどうしてこれほど長く続いたのか、という疑問を抱えながら、和歌の歴史をできるだけ大きな視野から眺めてみたいと思っています。『和歌とは何か』（岩波書店、二〇〇九年）、『中世和歌史論 様式と方法』（岩波書店、二〇一七年）、『和歌史 なぜ千年を越えて続いたか』（KADOKAWA、二〇二〇年）などが、その格闘の軌跡です。





2

# 〔素庵本三十六歌仙〕

▼推す人

神作研一（教授）

藤原公任が和歌の名手を三十六人選びそれを歌合形式にした『三十六人歌合』は、江戸期に入ると常に歌仙絵を伴って刊行されました。

六歌仙 六をかけても 歌仙なり

（『俳風柳多留』三十三編）

さて本書は、（嵯峨本三十六歌仙）（慶長頃刊、整版）に継ぐ寛永頃の刊行で、編刊に深く関与した角倉素庵に因んで「素庵本三十六歌仙」と通称されます。伝本極稀。掲出したのは原装の丹表紙が美しい岡田真旧蔵本で、原題簽「歌仙」を具備する上本です。

画工は不明ながら、その面貌は、先行する嵯峨本（伝土佐光茂画）とは相当に異なっています。やはり寛永頃の刊行と推定される伝本極々稀の「素庵本百人一首」（東洋文庫蔵）とともに、今後、素庵本をめぐる多くの謎を解いてゆきたいと思っています。

豊饒なる

歌仙絵入り

刊本の

世界に遊ぶ

かんさく・けんいち ▼ 日本近世文学、特に和歌史・学芸史専攻。院生の時以来、江戸の人びとが学び楽しんだ「和歌」というものの持つチカラを探索する〈旅〉を続けて、今に至ります。江戸に即して／古典籍に寄り添って、地味だけれどもいぶし銀の仕事をと心掛けています。墨田区生まれ、荷風縁りの市川育ち。恩師は能村登四郎・田村禎之（市川中高）、大輪靖宏（上智大学）・雲英末雄・林望。近詠一句。

濃き薄き 花の吉野の つづら折り

研一



3

# 『吉田臥竜軒詩文』 歴代詩文／六

▼推す人  
山本嘉孝（准教授）

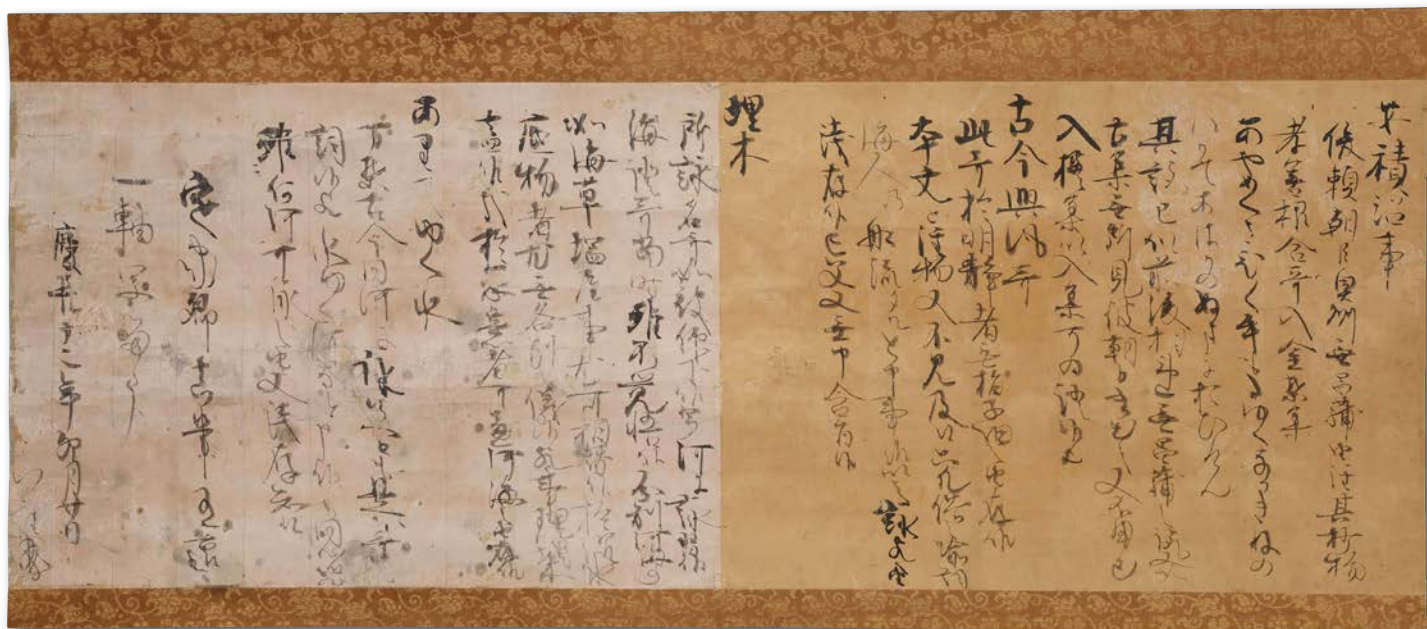
近世日本人が  
中国文化に  
触れた  
具体的事例

**白** 杵藩（現大分県杵市）に仕え、京都で留  
守居役を務めていた儒者、吉田臥竜軒  
（一六四九—一七二五）の詩稿に、中国福州出身で  
承応三（一六五四）年に来日した黄檗僧、南源  
性派（一六三一—一六九二）とされる人物が朱筆  
で批点を加えたもの。近代に卷子装に仕立て  
られたと考えられます。漢詩の添削資料として  
て、また近世日本の人が黄檗僧を媒介として

明末清初の生きた中国文化に触れた具体的事  
例の記録として貴重です。臥竜軒が中国出身  
の黄檗僧たちと交遊し、漢詩文の添削を乞い、  
禅や作詩について筆談などしたことを示す自  
筆稿が、本資料を含む卷子本一〇軸に収めら  
れて当館に所蔵されています。

やまもと・よしとか▼江戸・明治期の日本漢文学を専門と  
しています。漢詩文の持つ多種多様な形式や価値観の  
内、どれが、どのような場面で、いかなる属性の集団  
や個人によって、なぜ必要とされたのか、という問い  
を立てながら、近世・近代日本の儒者・文人・漢学者  
について調査・研究しています。著書に『詩文と経世  
—幕府儒臣の十八世紀』（名古屋大学出版会、二〇二一  
年）があります。





4

# 『定家物語』

▼推す人  
海野圭介（教授）

こひつぎれ  
古筆切の発生や

伝来・鑑定の

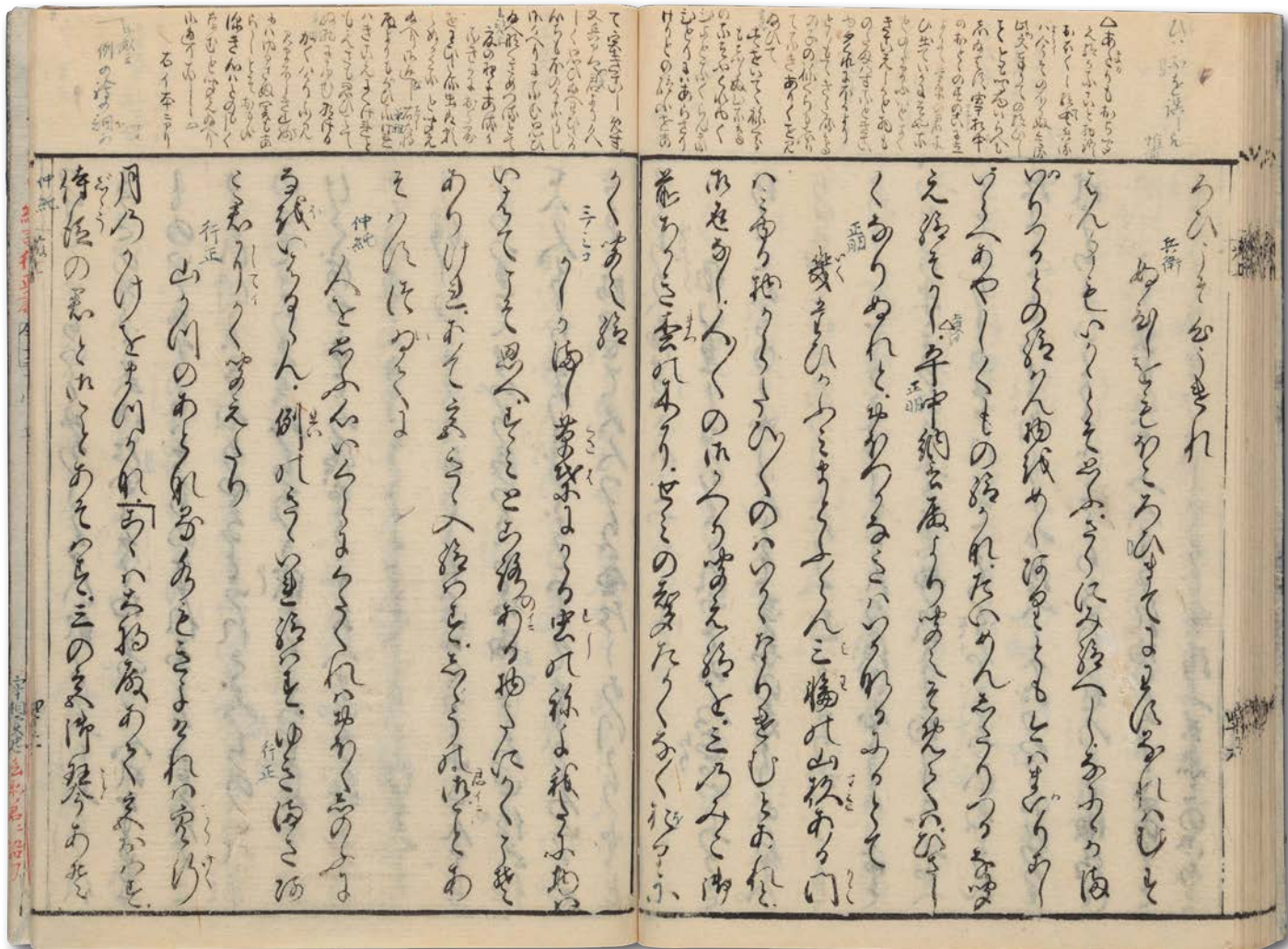
歴史を

考える上で貴重

『定家物語』は、鎌倉時代を代表する歌人で、王朝の古典に通じた学者であった藤原定家（一一六二—一二四二）が和歌の解釈について記した書物です。名前の記されないある高貴な人物の疑問に答える一問一答のかたちで記されていますが、その質問者は三五歳年下の順徳天皇（一一九七—一二四二）だったと推測されています。ここに示したものは桃山時代の歌人で、その時代を代表する書家でもある烏丸光広（一五七九—一六三八）が書き写したものの一部です。左端には光広のサイン（花押と呼ばれます）を添えて、定家の自筆本を写したと記されていますが、ちょうどこの部分にあたる定家自筆本の存在が最近報告されました。茶の湯の流行とともに広がった古筆切の発生や古い筆跡の鑑定の歴史を考える上でも貴重な資料です。

うんの・けいすけ▼専門は鎌倉時代から江戸時代前期頃の和歌、歌学、古典学。公家や僧侶たちによって行われた和歌や物語などの古典を読み解く営みの歴史を軸に、仏教思想や神祇信仰、儒学、国学といった時代の信仰や学問との交渉やその影響などについて考えています。調べものに出かけた先で、美味しいものと地酒を見つけるのが実益を兼ねた楽しみ。





藤原の君の巻

# 5 『宇津保物語』

▼推す人

江戸英雄（助教）

数々の

国学者たちの

書き込みや

貼り紙で

当時の研究が

わかる

天保一五（一八四四）年梓行の板本。全二〇巻三〇冊。延宝五（一六七七）年開板（開

版ともいい、版木で刷って出版すること）、文化三（一八〇六）年補刻、天保一三年官許。本文・挿絵の余白に書き込み等があります。小西春重が天保三年に転写した祖父鈴の屋翁の書き込みを、生川春明が弘化三（一八四六）年に転写しました。また、栗田直政所持本の書き込み

を、安政の頃に佐野方脩が転写しました。田中道磨の研究を転写した書き込みに加え、鈴木木艮・三浦益徳・小塚直持らの名前、空物語玉琴の説も、書き込みや貼紙にみえます。江戸時代後期から幕末ごろに、国学者たちが宇津保物語にも関心を示し、注釈・研究を行ったことを伝える資料の一つです。

えど・ひでお ▼ 専門は、日本の古典文学で、主に平安時代の作品と物語論について研究しています。これまでに、論文「紫の上と光源氏」（『国文学研究資料館紀要』四十一号）、「嵯峨院の六十賀」（同四十三号）を発表しました。





# 6 『源氏かるた』

▼推す人  
中西智子（准教授）

**当** 館所蔵の『源氏かるた』四種のうち、二〇一六年に鉄心斎文庫より寄贈された肉筆かるたをご紹介します。近世の『源氏物語』は、一般に、五四帖を個人が黙々と通読するというよりは、各種の梗概書やパロディ・舞台化作品、遊興、工芸意匠や着物の文様などを通して、皆で「わかりあって」楽しむ要素の強いものでした。『源氏かるた』には

様々なバリエーションがありますが、特に肉筆のものには典雅な優品がしばしば見られます。当該かるたは簡略化された表現ながらも、こまやかな筆で男性ばかりを描く点、また御法巻に僧侶の姿を配する点などが珍しく、似た図様の多い九州産業大学図書館蔵本・同志社大学図書館蔵本・滴翠美術館蔵本などとの関係性も注目されます。

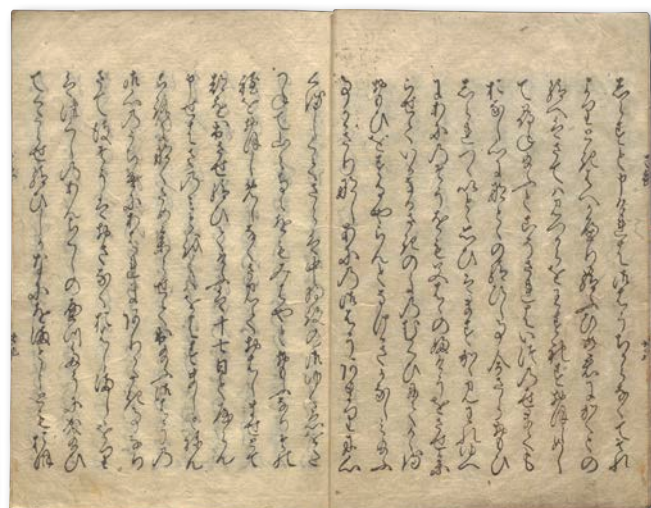
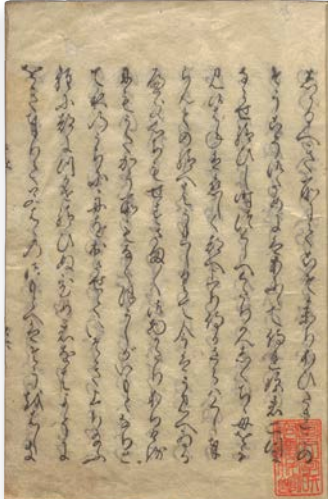
皆で共有し

楽しむための

アイテム

なかにし・さとこ ▼ 日本中古文専攻。特に『源氏物語』および紫式部論・引用表現論。和歌的表現をはじめとする物語の「ことば」を軸に、藤原道長家における『源氏物語』の同時代的な意義について考究しています。好きな映画は『ニュー・シネマ・パラダイス』。現実と虚構の付き離れ、記憶の共同性と新たな作品の創造といった事柄に興味があります。





7

# 『狭衣』 さころも

▼推す人

井黒佳穂子（特任助教）

ハッピーエンドに

改変された

人気作品の

スパニアウト

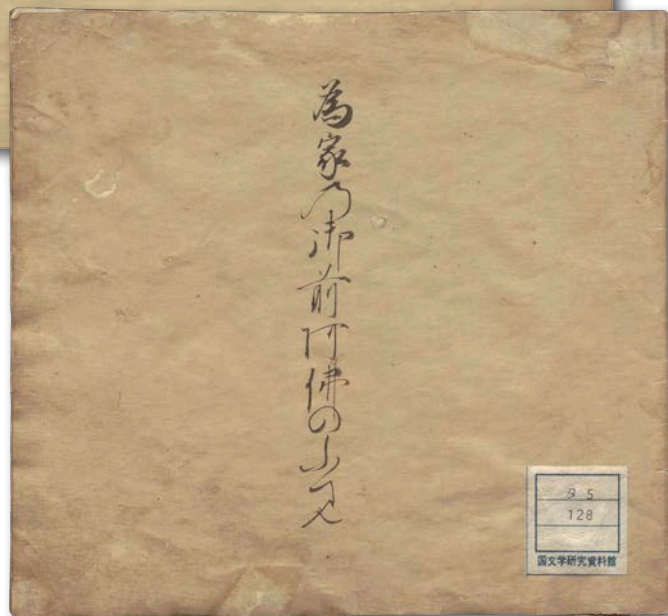
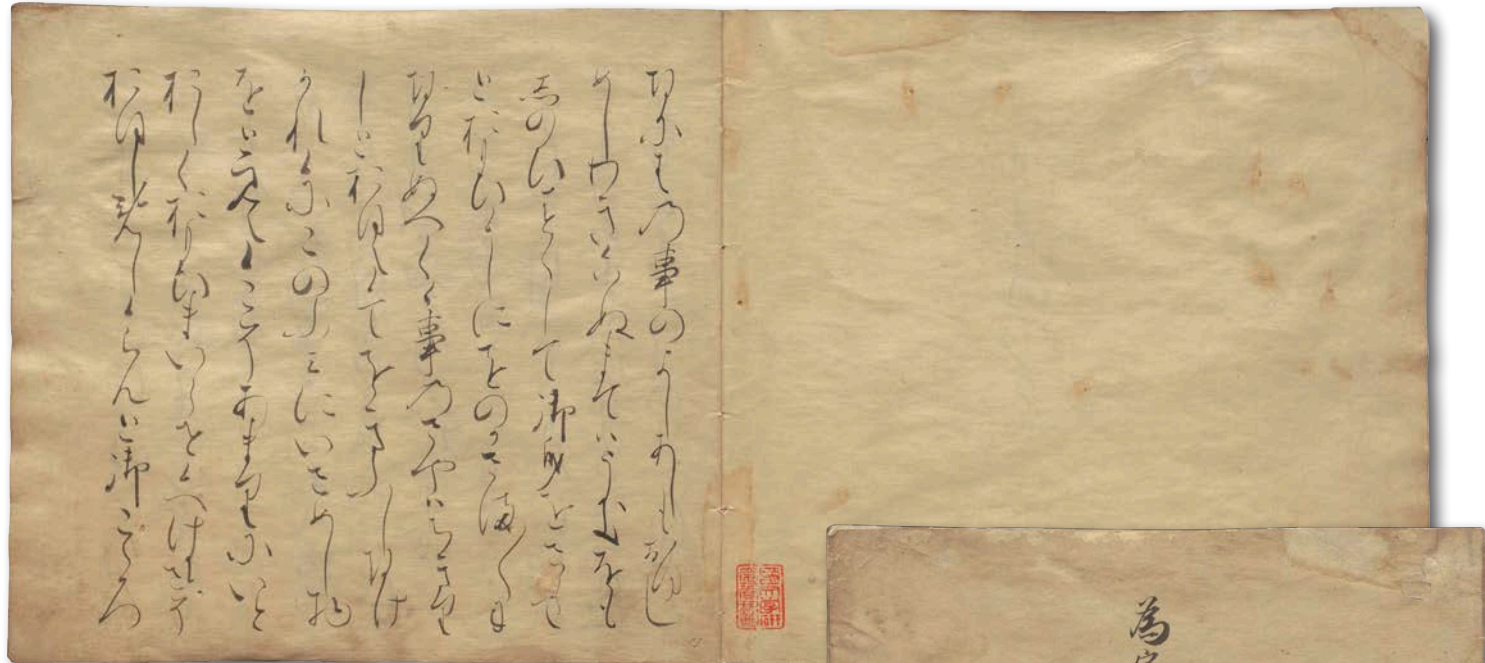
**平** 安時代の作り物語『狭衣物語』  
語を改作したお伽草子。『狭衣物語』は『源氏物語』の影響を受けた人気作品で、狭衣という貴公子の恋と出世を描いています。

お伽草子『狭衣』は、狭衣と関わる女性たちの中から、飛鳥井の女君をヒロインに据え、女君が入水するという悲劇的な最期から、一度は引き裂かれるも、最期は結ばれるハッピーエンドの物語に改変されました。

人気作品からスパニアウトが作られ、さらに人々に楽しまれるという在り方は、現代文化にも通じる部分があります。当館所蔵の作り物語『狭衣物語』（請求記号／サ4-107）や、奈良絵本『狭衣』（請求記号／99-40）と比較しつつ読むのも面白いでしょう。

いぐろ・かほこ ▼ 古典籍共同研究事業センター特任助教。物語における絵とテキストの関係性について、御伽草子を中心に研究しています。子供の頃から神話や伝説が大好きで、一つの物語が文章や絵画、音楽、映像などメディアによって形を変えつつ、時代を超えて語られることに興味があります。



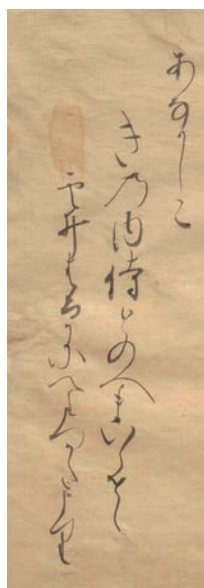


8

# 『阿仏の文』

▼推す人

齋藤真麻理 (教授)



本書末尾。娘の「きの内侍」あての手紙であることが記されている

娘あての手紙が

女性向けの

教訓書という

ジャンルの

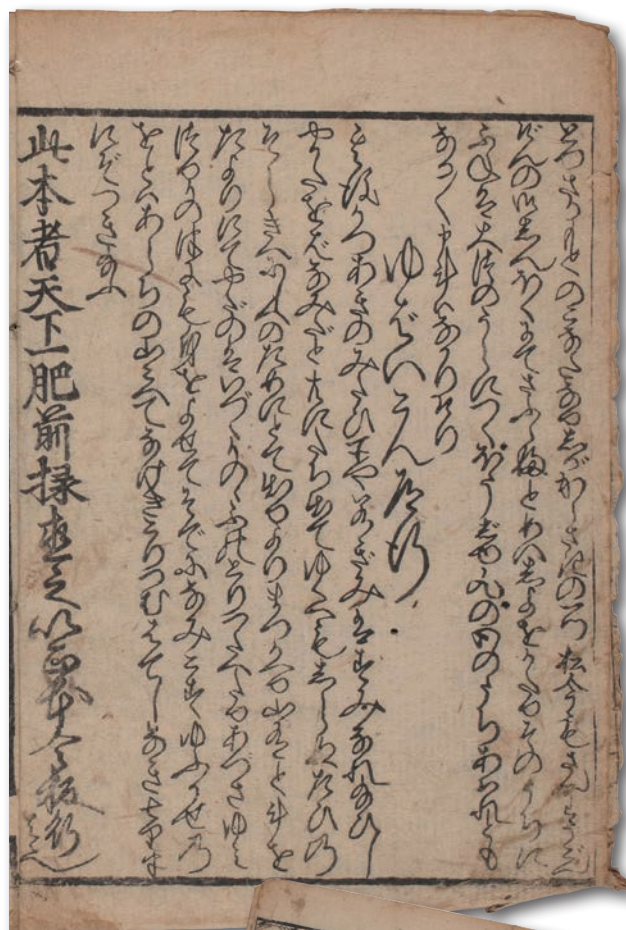
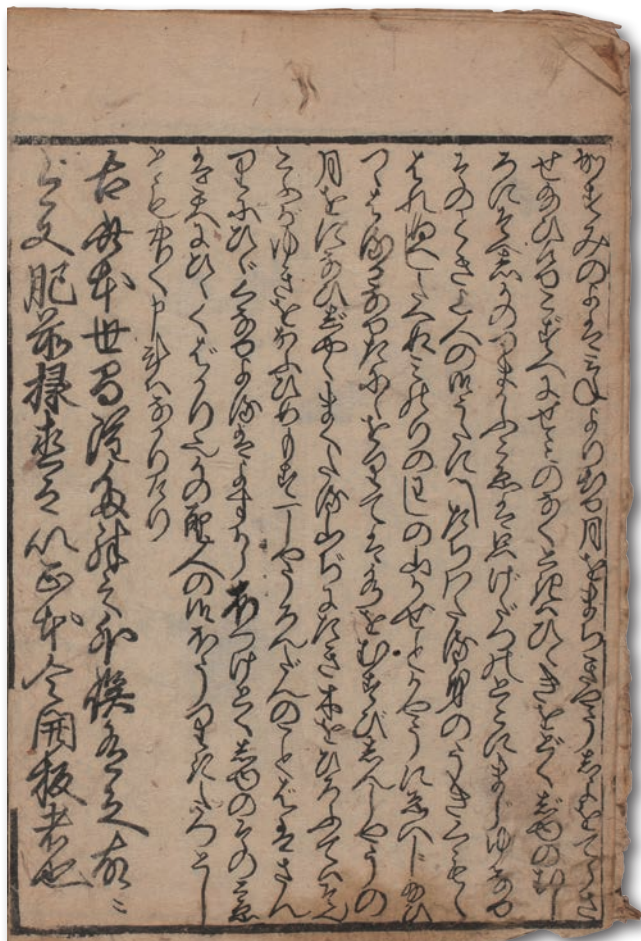
はじまりになった

女

性向けの教訓書。作者は『うたたね』『十六夜日記』の著者として名高い鎌倉時代の歌人、安嘉門院四条(法名阿仏)。もとは愛娘の紀内侍(きのないし)にあてた手紙で、国文研本はそれを後人が抄出した最古の略本です。宮廷生活の心構えや女房の職務、求められる教養、庇護者を失った際の身の処し方に至るまで細やかに綴られており、『源氏物語』など古典を駆使する点も読みごたえがあります。本書を縦横に活用した滑稽な室町物語『乳母の草紙』などから、『阿仏の文』が多くの読者を獲得していたことが窺えます。本書を嚆矢として女性向けの作法書や教訓書が次々に誕生し、幅広い階層の女性に迎えられる、女訓書と称されるジャンルが形成されていきました。

さいとう・まおり ▼ 専門は室町時代から江戸時代前期の文芸です。とくに、多くの絵巻や絵本が伝わる室町物語(御伽草子)などに関心を寄せ、この時代の文学圏域や学芸のあり方を研究しています。近年は江戸時代前期に集中的に描かれた狩野派の「戯画」の魅力を追いかけています。著書に『異類の歌合 室町の機智と学芸』(吉川弘文館 二〇一四年)、『妖怪たちの秘密基地 つくもがみの時空』(平凡社 ブックレット、二〇二二年) などがあります。





9

# 『道行集』

みちゆきしゅう

▼推す人

落合博志（教授）

より古い本文に

近付くために。

古浄瑠璃の物語を

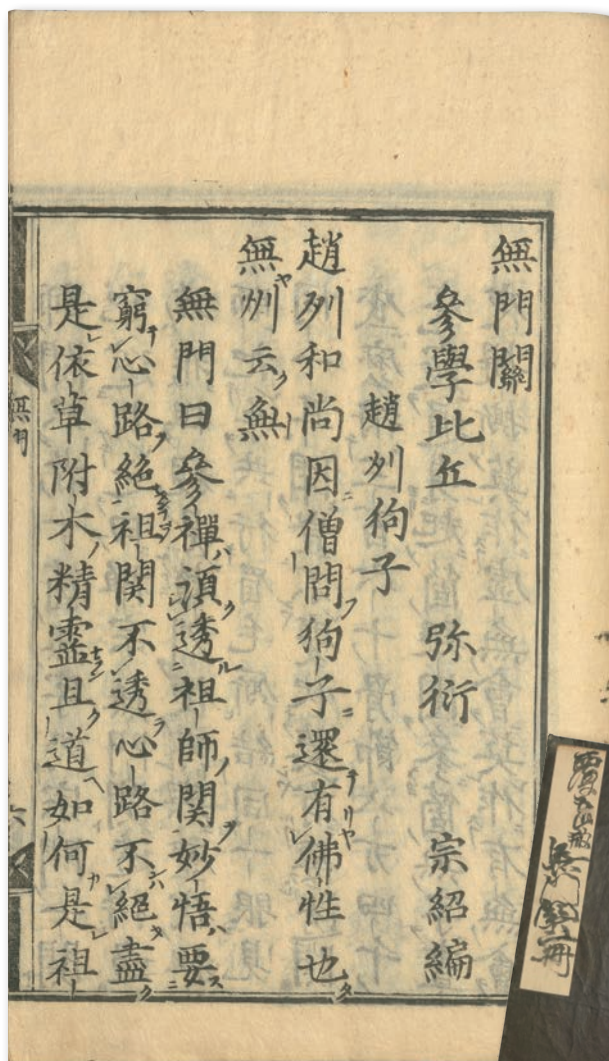
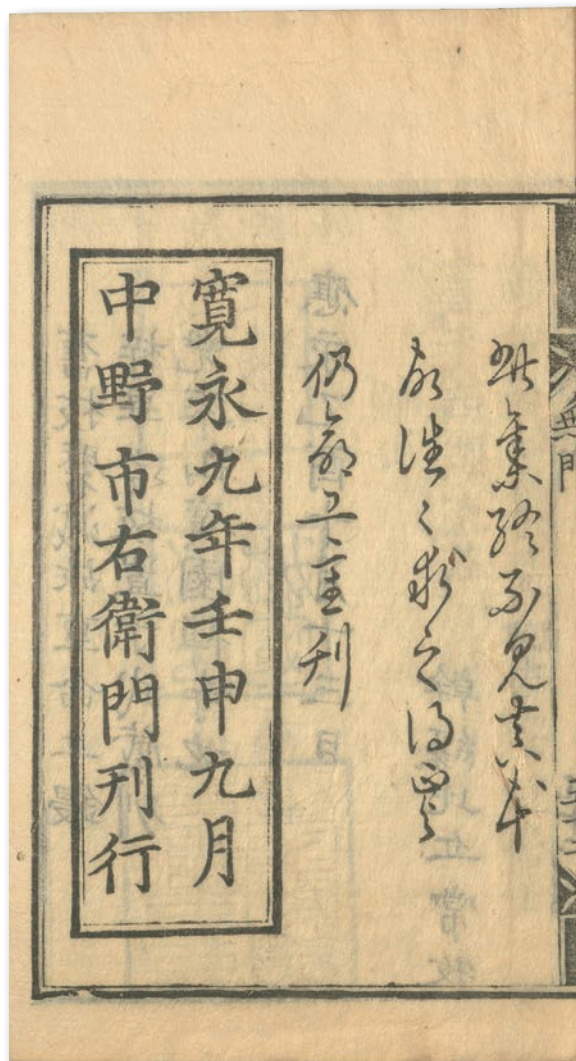
いまに伝える書

**本**書は、全七丁の版本で、第一〜二丁「ぢぞうの

道行」「ゆばいこん道行」、第三〜四丁「日れん山籠」、第五〜七丁「いけに糸の道行」「さくらがり道行」「かんらの太夫」「うた枕道行」の三部分（見開き絵各一図）から成り、第二丁と第四丁に「（天下）肥前掾直之以正本」板行するという刊記があります。杉山肥前掾（？ー一七〇二）は、江戸浄瑠璃の根元とされる杉山丹後掾の子で、寛文元（一六六二）年に肥前掾を受領しました。第五〜七丁も、丹後掾が「牲・歌枕」を語った記録があり、「池にへ」の肥前掾正本が存在したことが知られるので、やはり肥前掾の正本に基づくと考えられます。所収曲のほとんどは正本が伝存せず、道行のみながら散逸した古浄瑠璃の本文を伝える貴重な資料です。

おちあい・ひろし ▼専門は能を中心とする中世芸能、『徒然草』などの中世文学、奈良時代から江戸時代までの日本古典籍書誌学。近年は寺院資料の調査研究にも力を入れています。





# 10『無門関』

▼推す人  
ダヴァン・デイディエ（准教授）

**宋**代に作成された禅宗独特のジャンルである公案集。中国では忘れられたテキストだが、日本禅僧の無本覚心（二〇七―二九八）により伝来し、日本で著名な禅籍になりました。それまでのみちのりにはいくつかの段階があり、大きな転機は江戸時代初期、商業出版の発展により刊行されたことです。『無門関』が商業出版として初めて刊行されたのは寛永元（一六二四）年で、寛永九（一六三二）年までに四回刊行されました。当館所蔵のものは四回目のものに当たります。内容は

『無門関』のテキストだけでなく、後の本に見られる注釈や説明などはまだ施されていません。それまで禅寺の間にしか普及していなかった『無門関』がまさに日本社会に出はじめたころの貴重な資料です。

中国の禅書が

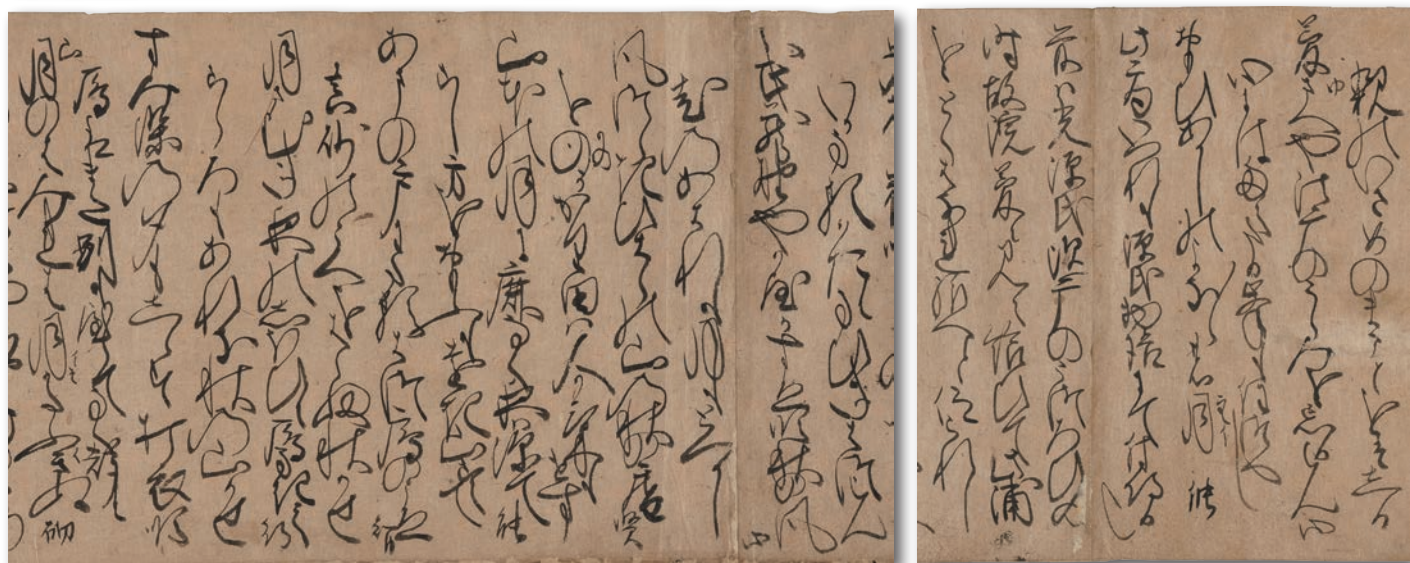
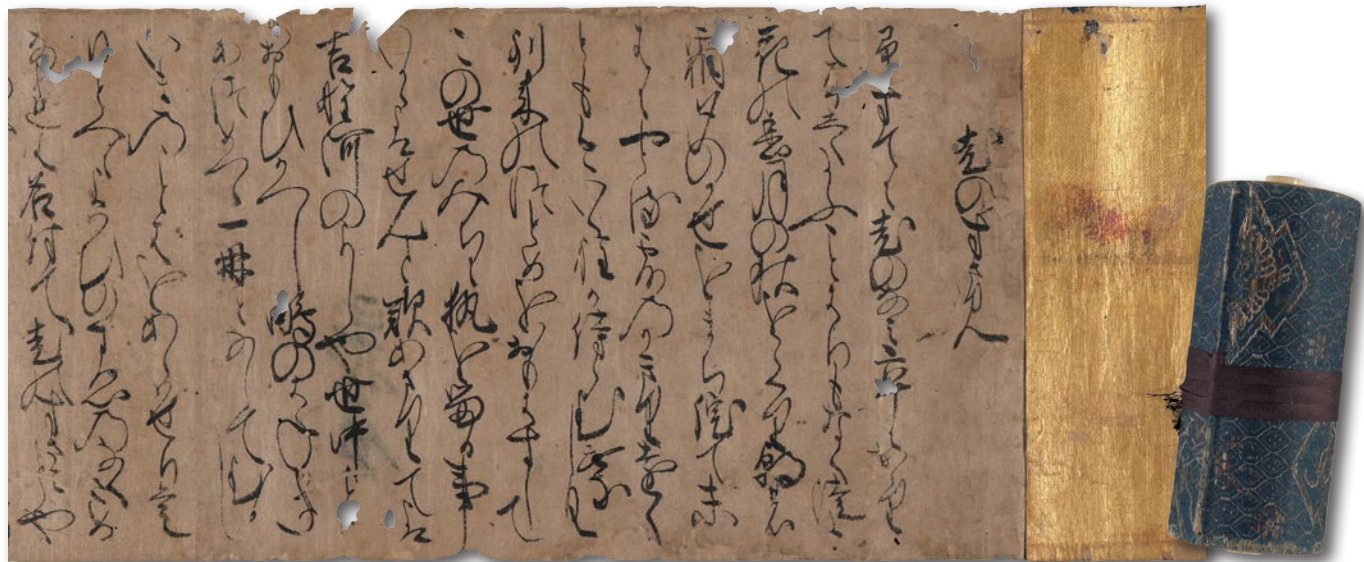
日本に

普及していく

様子がわかる

Didier Davin ▼ 博士論文のテーマであった一休宗純の研究から臨済宗に関心を持ち始めて、現在は中世後半から近世初期にかけての禅思想を主な研究対象にしています。一方、その禅宗の難しい思想がどのように日本社会に広まったのかということにも興味を持っています。特に仮名法語と呼ばれているテキスト群に関心を寄せています。禅僧向けの難しい本でありながら、近世にその範囲を超えて多くの在家に慕われた『無門関』の研究は思想史と社会への普及の両面を綺麗に融合しているといえます。





# 11 『老のすさみ』

▼推す人  
ノット・ジェフリー（助教）

**連** 歌師宗祇（二四二—一五〇二）の著作で、「老の慰め」と題しながらも、むしろ連歌

学習者に向けた、教材的な書物となっています。前半は、連歌作句の基本を実例の解説によって説明し、後半では豊富な付合例で連歌の望ましい姿を示しています。解説では様々な歌学書や『源氏物語』等に触れ、連歌と宮廷文化との関連がたびたび焦点となります。一方でこの連歌論は文明二二（二四七九）年に宗祇が

越前守護代の朝倉孝景に書き与えた作品です。地下の連歌師が武家に公家の文芸を伝えているのは、中世後期の身分を越境する文化交流の縮図のようです。国文研本は、下冷泉持為筆とする箱書が不審ながら室町後期の古写で、宗祇『発句判詞』を合写しています。原装のままではないものの、珍しく卷子本。宗祇連歌の当時の名声のほどを我々に物語る一本です。

公家の文芸を

伝える

連歌師が

武家に

Jeffrey Knott ▼ 専門分野は中世後期、主に一五—一七世紀

の古典学です。『源氏物語』『伊勢物語』等の古典作品が、特に室町〜戦国期の人々にどう読まれてどう解釈されていたか、その読者たちが古典に何を求め何を得ていたかを、当時の様々な資料に拠って研究しています。



一ト群ハトミカト見ニルカ如意ニ歡愛岩伊吹獅子寢寢  
 ヲリモ雨電雲ヲ引出シ天大穽妻々々カミ大雨車輪  
 降リ下シ今去堂ニ微塵ニ成ルカト鳴落去前女房達待  
 ニ至道是バト仰天ニタル知此敵山方ヨリモ大風頻吹  
 来リ全貴肥方ヨリモ大余ト光リ物六ツ常盤去前去  
 座シテキト書テニ見タリ去前成シ女房達是ハト周章  
 軟弱ナリ也常盤去前此ミ敬馬キ在サスヤ如何カク何  
 トテ左様ニ騷ニヤ是ハ北山ノ魔鬼王ヲ成業ニシ山ニ目  
 奇持見セシトテ南面ノ廣縁ニ去出アリ珠數ヲ  
 押操ニ觀音經念彼ノ段儲一代ノ諸眞言願ニ綴  
 給ハカト時祇成藏恍シテ難カガ族ナリ今モ来リ  
 山別當ハ護摩道場栢籠ニ具ハ平家ノ去就禱ニハ  
 童子カ爲ミ行ニ縁シテ在ス口ハ今去堂ニ押タル鐘音  
 大驚ニ給ト去堂入セ給ト聖達ニ去前召サレ如何ニ  
 口今去堂押タル鐘音偏ニ不思議ト覺タリ故如何  
 ト申先ッ大俗人ノ鐘音諸行無常ト御言ク也全タ此  
 山衆徒ノ押タル鐘音生滅々己ト響音ナリ智者小人ノ  
 押タル鐘音ハ是生滅法寂滅爲樂ト響音ナリ天狗ノ押  
 タル鐘音ハ無常響也只今鐘音ノ克ク聞ク現在信  
 亡不可得過去信モ不可得未ト不得三也不可得無前  
 捺落ニ沉ムト御音キ如何様罪業深キ人押



幸若舞曲『常盤問答』（寛永版舞の本）より、仏法問答をする常盤御前と東光阿闍梨



▼推す人  
 桑 汐里（特任助教）

# 12 ときわくらまやぶ 『常盤鞍馬破』

我が子

愛しさに

女人結界を

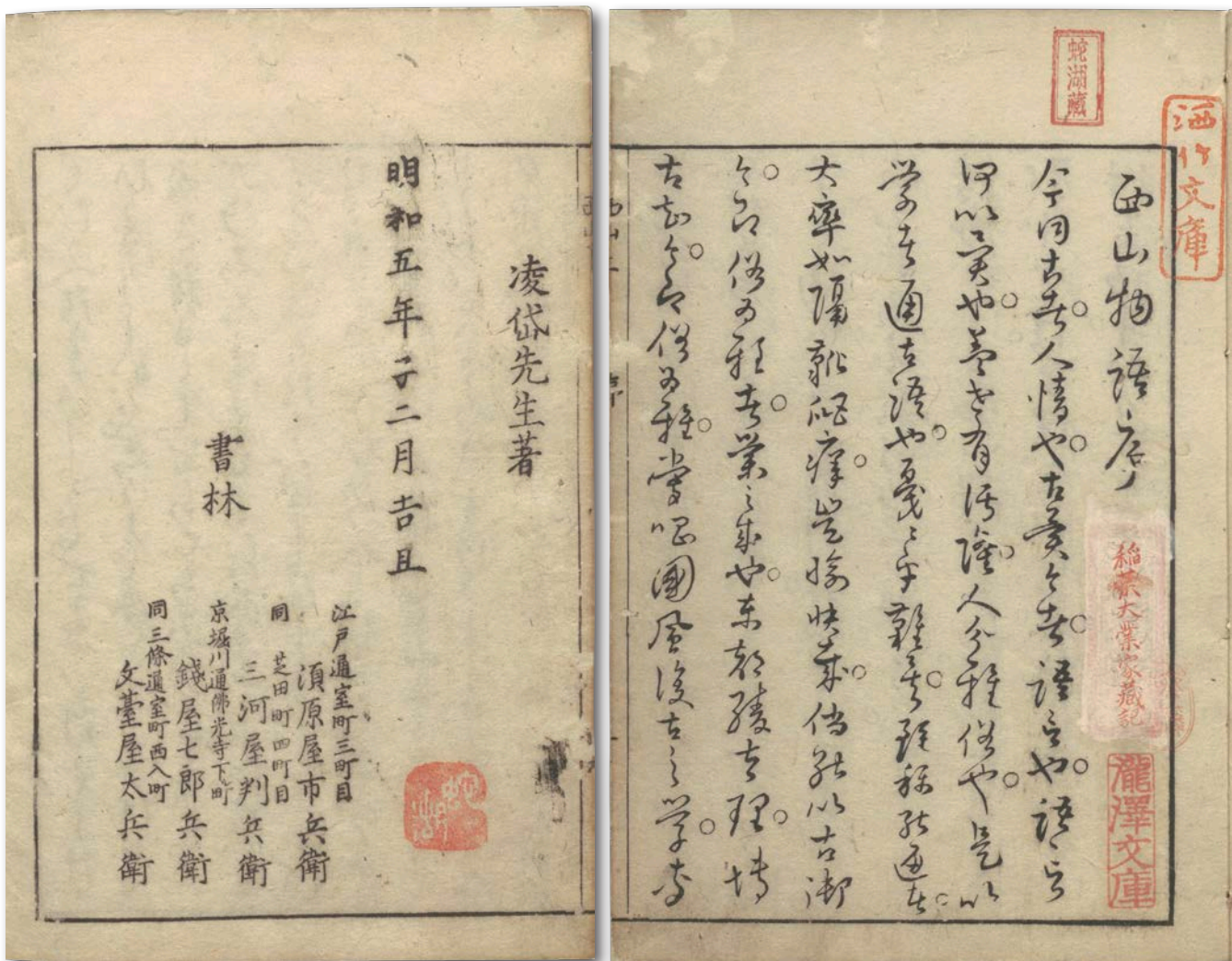
破る女の

ストーリー

**本** 書は常盤御前が牛若丸の学問所  
 の下見にと鞍馬寺を訪れたところ、高僧の東光阿闍梨に女人結界を侵犯したと咎められ、女人往生をめぐる  
 仏法問答へと発展する物語です。この  
 物語は一般に、幸若舞曲の一作『常  
 盤問答』として知られていますが、そ  
 の他にも東北地方に伝わる奥浄瑠璃  
 本や、問答の数が極めて多く、中世の  
 男女の営みに関する言説や阿弥陀と薬  
 師の縁起由来など特異な内容を持つ写  
 本群が九州地方に流布しており、女人  
 往生を説く物語として様々な形で地域  
 社会に受容されてきたことが明らかに  
 なってきました。本書は、常盤御前が  
 女人結界を踏み越えようすると大雨  
 落雷が起こる等、奥浄瑠璃本に近い内  
 容ですが、鞍馬山を胎蔵界に喩えるな  
 ど密教的な解釈も散見されます。「幸  
 若舞曲『毛利家本』の成立」などの名  
 論文で戦後の幸若舞研究を牽引してき  
 た故・庵途蔵氏の旧蔵書です。

くめ・しおり ▼ 人文知コミュニケーション。専門は室町時代から江戸時代前期にかけての  
 説話、物語草子、語り物（幸若舞曲、説経、  
 古浄瑠璃）です。近年は語り物を題材とした  
 絵巻、絵入り本、屏風などの絵画作品や、源  
 義経を題材とした語り物について研究を行っ  
 ています。また、学生時代から民間信仰や在  
 地伝承といった、地域に根差した文化にも関  
 心をもち、地元の伝承にちなむお菓子や、寺  
 社の絵入りのお札を集めています。





# 13『西山物語』

▼推す人

木越俊介（准教授）

明和四（一七七七）年二月、京都において、渡辺源太という男が、自分の妹と

の恋人との別れ話のもつれから妹の首を斬るという「源太騒動」が発生。この事件をもとに、わずか二カ月後に建部綾足が小説化したのがこの『西山物語』です。大筋においては実説を踏まえながら、楠正成の刀をめぐる怪異や亡霊、殺された妹の異界からの訴えなど

幻想的な要素をふんだんに盛り込み、文章は古典作品を出典とするさまざまな雅語をパツチワークのようにちりばめた異色作。江戸時代の版本の小説としては挿画がないのもきわめて異例です。曲亭馬琴旧蔵書。

妹の首を斬る

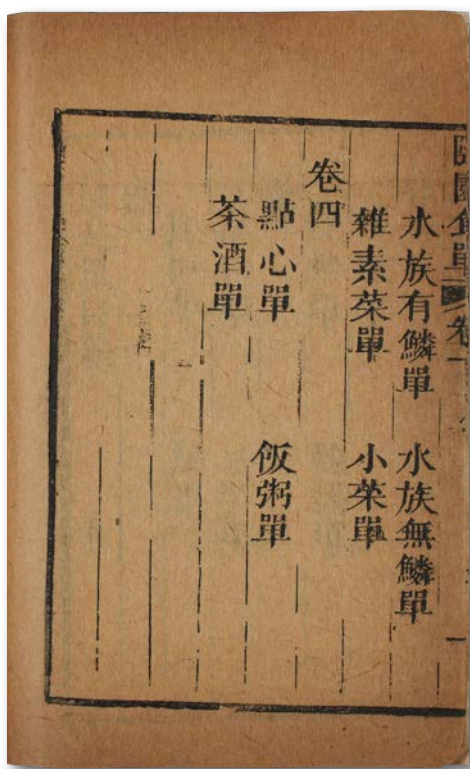
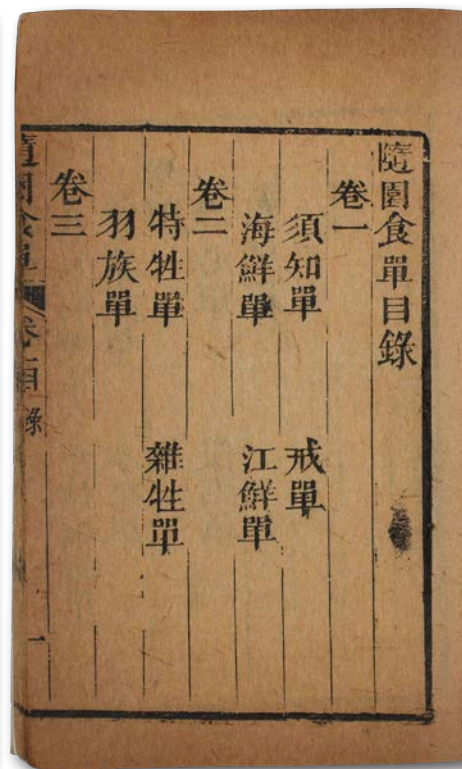
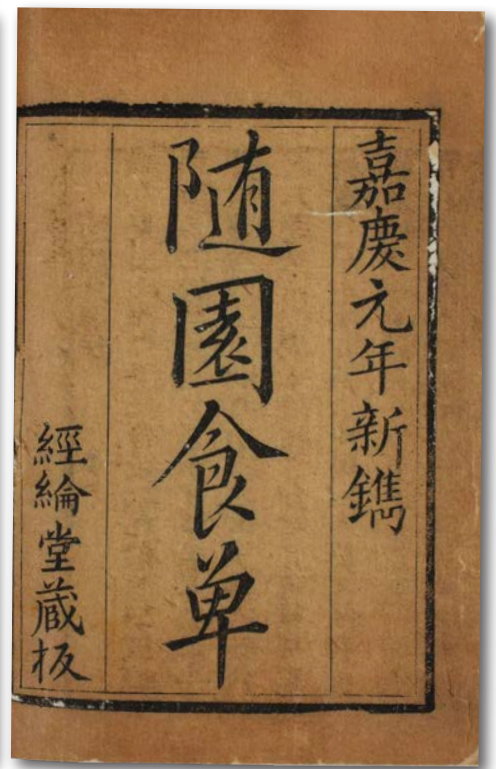
実話をもとに

作られた

幻想的な異色作

きこし・しゅんすけ ▼ 高校時代、日本史図表の江戸時代の文化欄が大好きで、大学時代に実際の文学作品に接してこの道に進みました。古今東西、新旧問わずモノガタリを愛し、いまは実話と虚構それぞれがもつ可能性と限界について考えています。建部綾足には『折々草』という珠玉の短篇散文集もあり、『西山物語』と同様、活字でも読めますので関心のある方はぜひ探して読んでみてください。





14

# 『随園食單』

▼推す人

黄 昱 (特任助教)

大詩人が

記した

中華料理の

百科全書



**本**作は、フランスのブリアール・サヴァラン著『美味礼讃』と並べて、東西の食文化に関する書物の双璧といわれている料理書です。

著者の袁枚（一七一六―一七九八）は、性霊説を提唱した中国清代の文人で、随園とは、袁枚が役人生活に嫌気がさして、三〇代で官を辞した後、趣味に生き、悠々自適な隠遁生活を送っていた庭園の名です。彼は自ら『随園老人』と号し、本書のほか、詩論集『随園詩話』などの作品を残しています。『随園食單』には、料理の予備知識や注意事項から、海産物、川魚、豚、牛といった獣類の肉や鳥肉、お酒とお茶の名品まで、食通袁枚が気に入ったさまざまな料理や調理法を「須知單」から「茶酒單」まで一四の部類に分けて記録しています。国文研所蔵本は、清の嘉慶元（一七九六）年の刊記を持つ経綸堂刊本で、袖珍本という、袖の中に納まる程度の大きさで携帯に便利な本です。第一冊に蔵書印「雨蒼程霖」が捺されていることから、本書は中国の有名な古典文学者程千帆（一九一三―二〇〇〇）の曾祖父程霖寿（一八三〇―一八八六、字雨蒼）の旧蔵書である可能性が高いことが分かります。

こう・いく▼専門は日本中世文学、和漢比較文学です。中国に発する古典知が日本に伝わり、変容し日本化していく過程に関心を持っています。学生時代から『徒然草』と漢籍の関係について研究しています。最近、中国の故事や説話など、より広い視点で中国と日本における知の伝播と交流を取り上げて考えています。

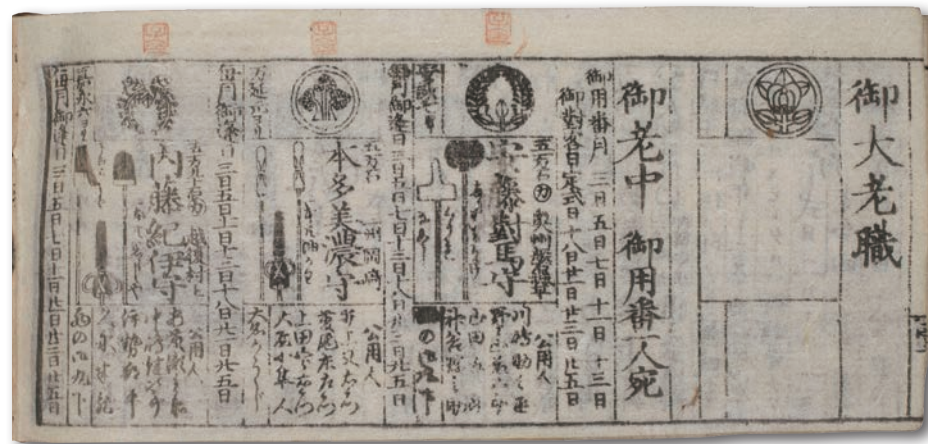
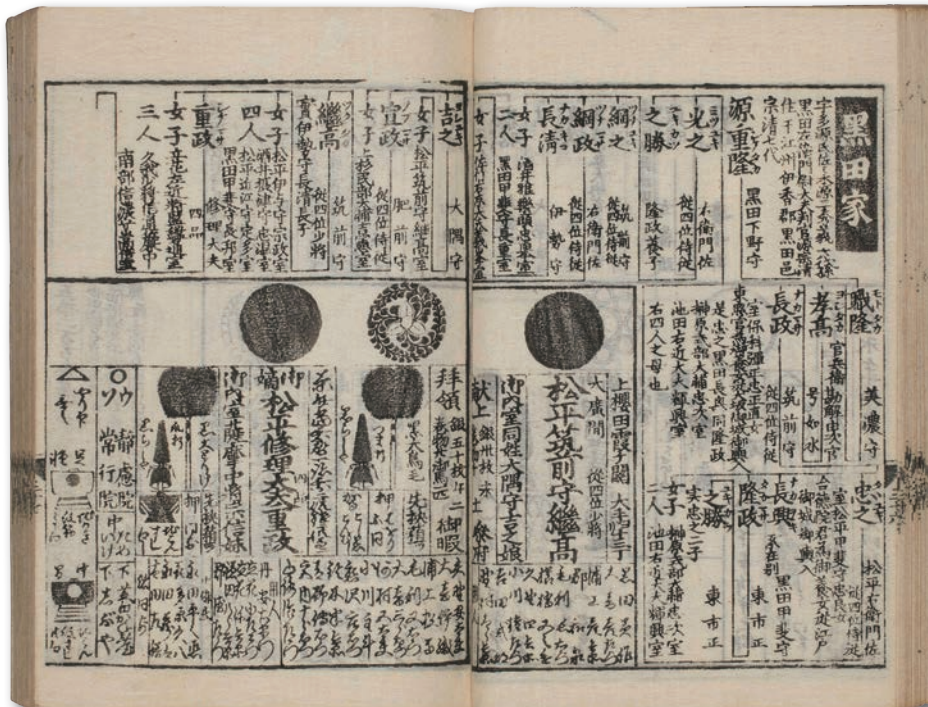




史料 2



史料 1



史料 3

# 15『武鑑』

▼推す人  
藤實久美子（教授）

**武鑑**は江戸時代に民間の書籍商が編集して出版した武家の名鑑のことです。史料1は最初期の武鑑で、寛永二二（一六四四）年刊行のさうしや版『御もんづくし』。本史料には大名家の紋

所・当主の名前、領知の場所・領知高が掲載される。その後、書籍商の工夫により武鑑の記事内容は充実し、多様な書名・書型が現れましたが、書籍商間の出版権利問題と関わって次第にレイアウト・書型は固定化されます。宝暦二二（一七六二）年刊行の出雲寺版『泰平万代大成武鑑』は四冊一セットの武鑑の典型（史料2）。史料3は万延二（一八六一）年刊行の須原屋版『袖玉武鑑』で幕府役人の略武鑑。略武鑑は携帯に便利で江戸見物や江戸土産に利用されました。三井文庫旧蔵。

書籍商の工夫で

進化した

さまざま

武家の名鑑

ふじぎね・くみこ ▼ 日本近世史・アーカイブズ学専攻。「近世」は豊臣期から江戸時代のこと。江戸時代を学ぶならこの時代の新しい産業を選ぼうと思ひ、大学二年生のときから出版業の勉強を始め、武鑑に出会いました。以来、板本から読み取れる書籍商の工夫、職人の手わざに魅せられています。その後、幕府御用達町人の書籍商出雲寺の事業史などに研究は広がりました。武鑑の「お楽しみ」に『武鑑全集』（<http://codh.rois.ac.jp/bukan/>）・『江戸の武家名鑑』（吉川弘文館）があります。





歴史上の

人物を

どう描く？

お手本の書

16

# 『絵本武者備考』

▼推す人

相田 満 (准教授)

しかも、詞書には「尊氏負軍とおぼへけれども少しも氣をくつせず」箱根竹の下の合戦の勝利で建武政権崩壊の第一歩を象徴的に描く場面です。その姿と頭に足利義詮の花押のある南北朝期の旧守屋家蔵本は今では「像主不明」の騎馬武者像とされていますが、本書の絵はそれに次ぐ古さで、像主「尊氏」説を再評価する傍証にもなっています。

あいだ・みつる ▼ 専門は和漢比較文学研究と人情情報学。国文研所蔵の絵入り本から肖像を抽出してデータベース化した歴史人物画像データベースを構築の過程で本書に行きあたりました。本図の説についての研究史と議論の詳細は小著『観相の文化史』第四章 騎馬武者像再考（勉誠出版、二〇二二年）にまとめています。『絵本朝日山』については、田中重太郎「清少納言枕冊子の影響文獻「尤のさうし」『絵本朝日山』「吉原大鑑」について」（相愛女子大学相愛女子短期大学研究論集）九一（一九六三年）、ゲルガナ・イワノワ「近世の女性読者と古典の大衆化―西川祐信の『画本朝日山』を題材に―」（石上阿希編『西川祐信研究会論文集 西川祐信を読む』立命館大学アトリサーチセンター、二〇一三年）があります。

『絵本武者備考』は源折江（生没年未詳）撰文、西川祐信（二六七一―七五〇）画。当時数少ない日本の故事肖像画の正本とするべく寛延二（一七四九）年に上梓されました。源折江の詳細は不明ですが、兩人による絵本は、『画本朝日山』（元文六（一七四一）年刊）、『絵本武者考鑑』（寛保四（一七四四）年刊）に続くもの。『朝日山』は折江が入手した清少納言の手沢本三冊に当世風の児童向けの絵本に西川祐信を誂えさせた由来の跋文を持ち、享受史上では『枕草子』鎌倉期成立の絵巻に続く古さです。『武者備考』中巻末には、大刀を担ぐ足利尊氏の姿を描く絵があります。



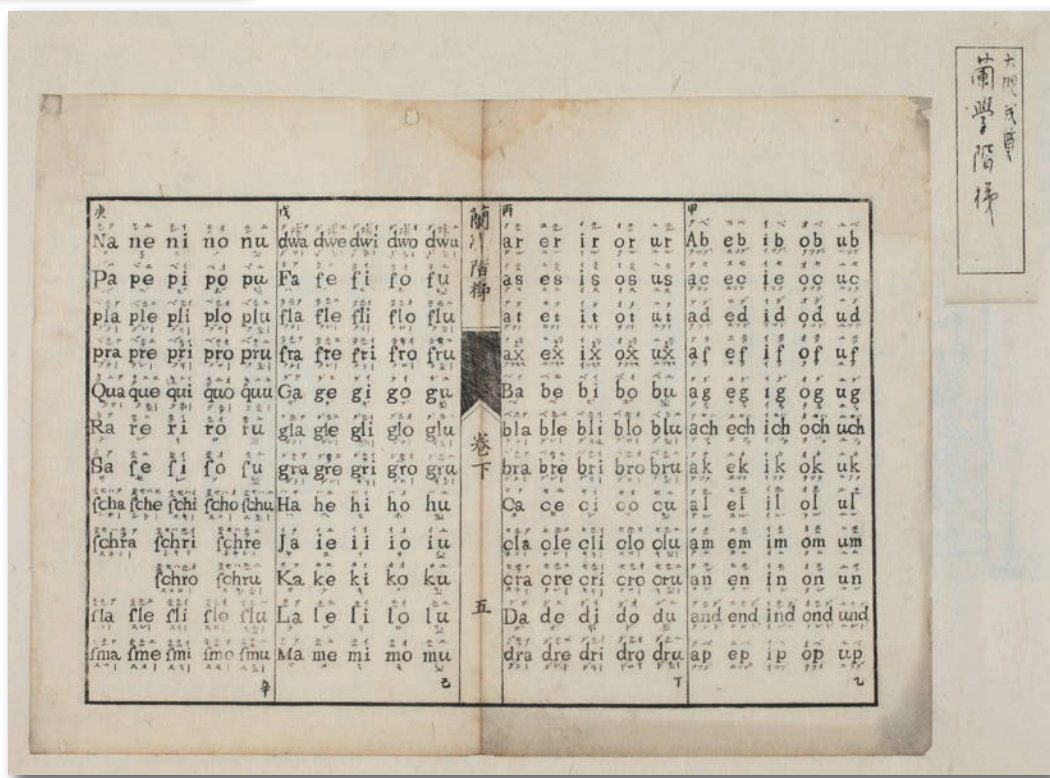
17

# 『大阪書田会』

おおさかしよでんかい  
きんせいしよきめいさく  
近世初期名作

## 『標本集』

▼推す人  
山本和明（教授）



貼込帳

集まって作った

愛書家連中が

無類の

やまもと・かずあき▼学生の頃、大学図書館の書庫でみつけた木版本に描かれた精緻な挿絵に魅せられ、以後、研究対象に決めました。一九世紀の小説や和学を専門にしています。誰も見向きもしなければ、棄てられる運命にある和本たち。そうした書物への愛惜の思いから、研究対象とした作者等に関わる和本や自筆物などを収集しています。近年は明治初期に活版化された小説なども収集対象に。今回紹介したのはそうした思いを同じくした先人たちの資料にあたります。

**版** 本五三点から、見開き一枚ずつ載せた貼込帖。明治四五（一九二二）年五月撰。「書田会」は、その記録文書に従えば、古典籍商鹿田松雲堂に集う、幸田成友（露伴弟）、加賀翠溪（その蔵書は都立中央図書館所蔵）、永田有翠（鴻池銀行重役の令息）、西村天囚（大阪朝日新聞主筆）、水落露石（俳人、子規門）といった無類の愛書家連中と鹿田餘齋によって、明治四三年三月から九回にわたり開かれたものです。水濡れや虫損により、本来なら廃棄される端本を各自が持ち寄り、その書の蘊蓄を語り合うとともに、それを分かち、本の標本集を作る趣向の会でした。一七世紀初頭に刊行されたつれづれ草などの古活字版もあれば、丹緑本、解体新書なども収録されています。



慶長五年 庚子  
 城洲伏見落城ハ  
 濃州岐阜モ落城セリ  
 神君將軍ニ補シ王ヲ  
 征夷將軍ニ任セラハ  
 江戸ノ御城御普請有  
 駿河御城御普請ト  
 秀頼ニ条へ來朝セリ  
 大坂初度ノ御発向  
 五月七日 落城メ  
 是ヨリ天下イヤミニ  
 日出度カリシ御代ソカシ  
 九月十五日也  
 八月朔日二十三  
 同八年 四十八  
 同十年 徳公  
 慶長十一 三月ニ  
 同十二 正月ニ  
 同十六 三月ニ  
 同十九 月トラ  
 元和元年 卯  
 秀頼誅伏翌 八日 九  
 千秋万歳 万々サイ

18

# 『古戦短歌』

推す人  
 入口敦志 (教授)

「鳴くよ (七九四年) 鶯、平安京」「いい  
 くに (一一九二年) 作ろう、鎌倉幕

府」。語呂合わせをして歴史的事件の年号を覚  
 えた人は多いでしょう。同じようなことを、  
 三〇〇年前の学者もしていたことが本書から  
 うかがえます。山鹿素行 (一六二一—八五) とい  
 う軍学者の、自著自筆本。冒頭「一条河原の  
 合戦は、大永元年辛巳、十二月二十三日也」  
 と始まります。武田信玄の父信虎が関わった  
 一五二二年の戦いから、元和元 (一六二五) 年  
 五月七日大坂夏の陣による豊臣家の滅亡まで、  
 戦国時代後期約一〇〇年間の出来事が七五調

の長歌に整えられています。途中、桶狭間の  
 戦いや本能寺の変など、重大な事件も記述さ  
 れています。軍学者としての必須の知識を、  
 覚えやすいように七五調に仕立てたものと考え  
 られるでしょう。あるいは、弟子の教育用  
 に作ったかもしれません。いずれにせよ、昔  
 の人もこうして勉強していたことがわかった、  
 なんとなく親しみが湧いてきませんか。

語呂合わせ

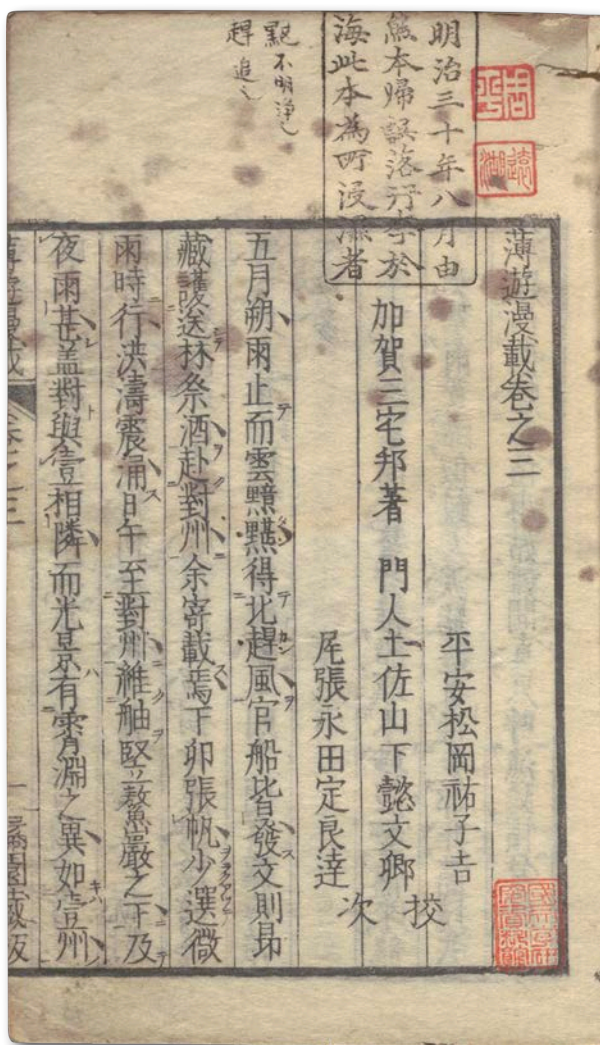
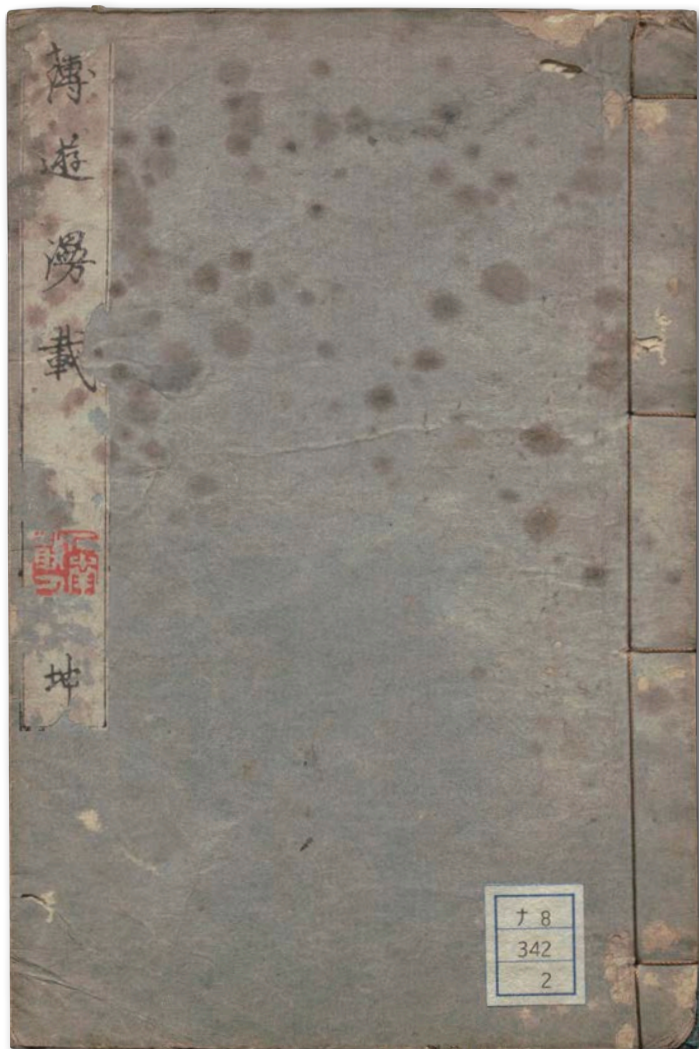
年号の

学者も作った

三〇〇年前の

いりぐち・あつし▼専門は江戸時代前期の仮名草子と呼ば  
 れる小説の研究。仮名草子の多様性を探るため、出版  
 文化や絵画、思想など、多様な分野に興味を持ってい  
 ます。





# 19『薄遊漫載』

▼推す人

青田寿美（准教授）

本に残された

印影から

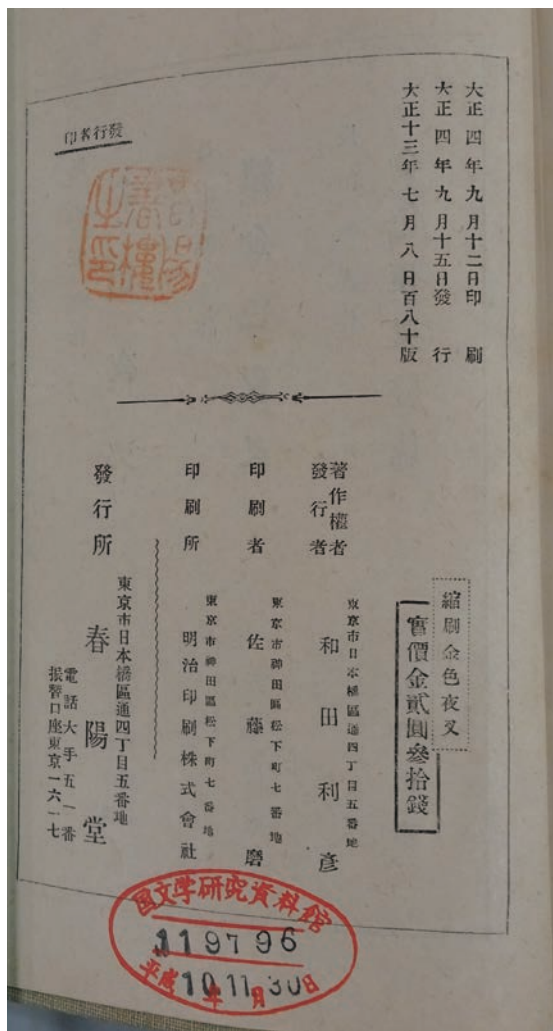
かつての持主の

胸中を偲ぶ

**下** 巻（坤巻）表紙から見返し・本文数丁に及ぶ水濡れ、微跡が顕著な資料。そのため、状態良好とは言いがたいのですが、捺された蔵書印に目を向けると視点が少し変わってきます。巻頭の朱印は「周平 遠湖」、黒印は「明治三十年八月由熊本帰誤落行李於海此本為所浸湿者」と読めます。朱印は、遠湖と号した中国哲学者の内田周平所用印と容易に判明しますが、黒印はどうでしょう。遠湖は、明治三〇（一八九七）年八月、熊本の五高教授を辞し、老親の待つ郷里浜松に帰ります。その事柄は

黒印の年時・地名と合致する上、印文は続けて、誤って「行李」を海に落とし「此本」を「浸湿」させたとあります。本書の水染み微跡は、愛書を海水に浸らせた遠湖の失策とその胸中を偲ぶ縁ともなるでしょう。

あおた・すみ▼日本近代文学研究を入口として、明治期の翻訳語史やメディア史研究に寄り道をした挙げ句、現在には、「蔵書印データベース」や「篆字部首検索システム」、「篆書字体データセット」、「明治期出版広告データベース」、「近代書物流通マップ」などを作成し公開することに注力しています。書物がどのように出版され流通し、蔵書が形成され伝来してきたのかを、俯瞰できるツール作りを目指しています。



『**金**色夜叉』は明治三〇（一八九七）年から三五  
年に「読売新聞」に連載され、作者尾崎  
紅葉の死によって中絶しました。いわゆるスピン・  
オフ作品、演劇、外国語訳、歌や絵はがきなどが  
次々にあらわれた本作は、ベスト・セラーが持つ  
「物語を生む本」としての性格を、象徴する作品だっ  
たといえます。単行本は明治三十一年に刊行がはじ  
まり、『合本金色夜叉』（明治四〇）の刊行後、縮刷  
版が重版を重ねていきました。

# 20『**金**色夜叉』縮刷一八〇版

▼推す人  
多田蔵人（准教授）

関東大震災前後の出版界では、本の版数を急激  
に増やす出版戦略が多く取られました。一八〇版  
という数字には、本作を人気作として演出する版  
元、春陽堂の思惑があったかもしれませんが（一九〇  
版まで確認）。本書は、文語体で書かれた『金色夜叉』  
がどのように近代をくぐりぬけていたのかを知ら  
せる貴重な一書なのです。

ただ・くらひと▼一九八三年生まれ。元来本は好きでしたが、  
文学部に入って、永井荷風の『花火』という小説を読んだこ  
とで人生が変わりました。永井荷風を中心に、小説や詩の「こ  
とば」がどのように構成されているのか、ひとつの「ことば」  
の背後にどんな文化の影響があるのかということを考える研  
究をしています。江戸時代以前の古典文学、漢文、そして西  
洋の文学が流入し葛藤しあう近代文学は、尽きせぬ興味の泉  
です。

演出された？

人気作として

一八〇版

本の版数





# 21 『武蔵国絵図』

▼推す人

西村慎太郎（教授）

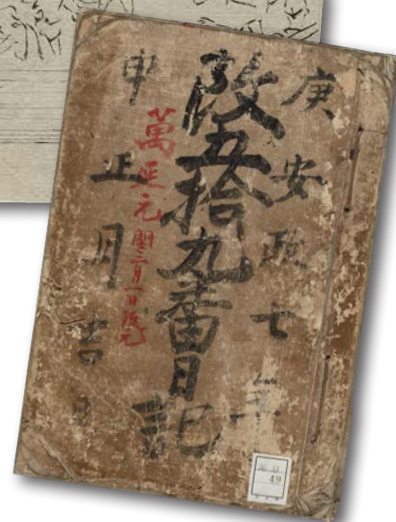
一本の道以外  
何も描かれない  
空白地域は  
立川の中心部

**当** 館が所蔵している資料の中で、最も大きいレベルに該当する五メートル×五メートルの武蔵国（現在の東京都・埼玉県全域と神奈川県の一部）を描いた絵図。江戸幕府が作製を命じた正保国絵図の下絵と考えられています。各村を楕円形で示し、道や川、山並みは明るい緑色に着色され、著名な寺社や徳川将軍の別邸である御殿・御茶屋が詳細に描かれています。注目すべきは、多摩地域の中で、一本

の道以外、何も描かれていない空白地域があること。その場所は現在の立川市の中心部です。まだ新田開発が途上であり、雑木林や荒涼とした萱野が広がっていたため、空白で表現されていました。

にしむら・しんたろう ▼ 東京都青梅市出身。祖父の故郷は小河内ダム（奥多摩湖）の底に沈んでいます。専門は歴史学・アーカイブズ学。近年では東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故被災地域の歴史資料保全と研究を進めています。主要著書『近世朝廷社会と地下官人』（吉川弘文館、二〇〇八年）、『宮中のシェフ、鶴をさばく』（吉川弘文館、二〇二一年）、『生実藩』（現代書館、二〇一七年）、『大字誌浪江町権現堂』のススメ（いの舎、二〇二一年）。





22

# 『保字金引替 群集絵図面』

▼推す人  
渡辺浩一 (教授)

りようがえしよう  
両替商に

殺到する人々と

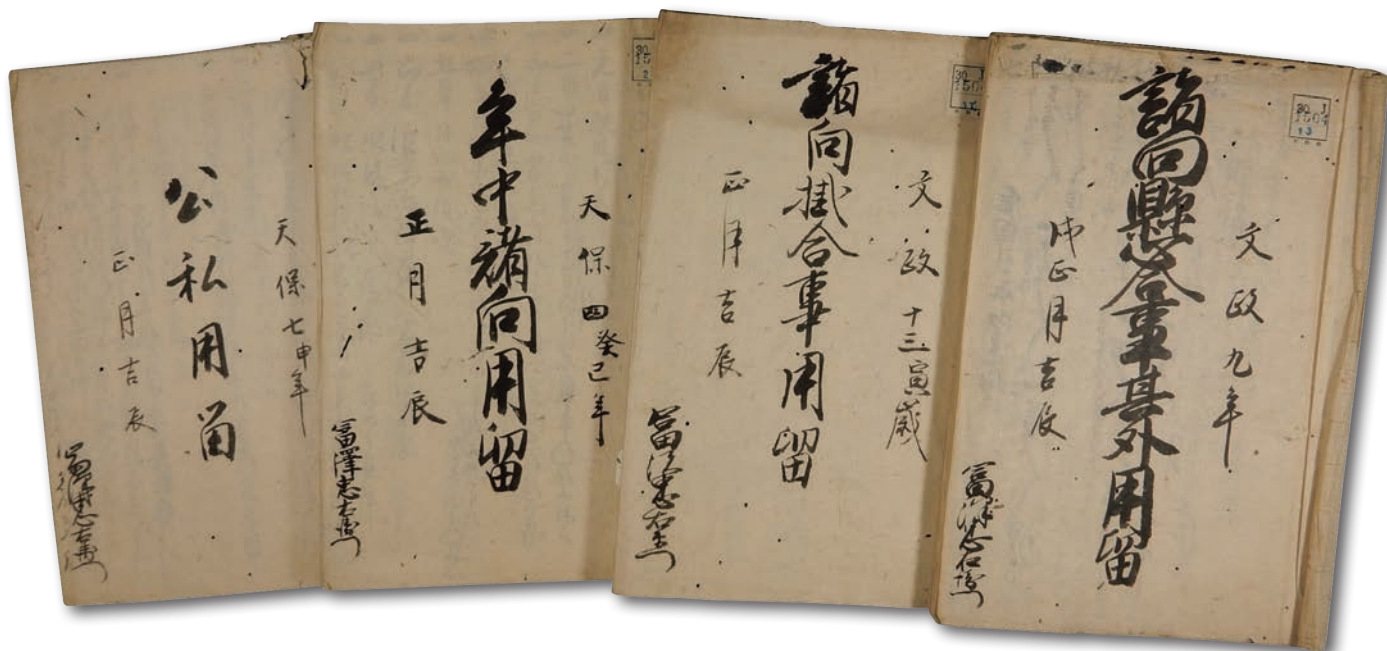
それを当て込む

屋台

**当** 館所蔵の江戸金吹町播磨屋中井家文書は、江戸時代後半から明治時代にかけて約一〇〇年わたる分厚い日記を八三冊含みます。安政七年すなわち万延元（一八六〇）年の日記にはこのような絵画史料が挟み込まれていました。これには改竄された貨幣を旧貨幣と交換するために両替商の店舗に殺到した人々が描かれています。画面奥の黒々と描かれている建物が播磨屋中井家の店舗です。そ

の手前あたりの人々は頭だけがポコポコ並んで描かれており、いかにひしめき合っていたかがわかります。その人数は一日で五六〇〇人にも及んだと日記には書いてあります。人々が引替を急いだのは、旧貨幣の通用停止が予告されていたからです。右下の方には、集まってきた人々を当て込んだ蕎麦屋や茶飯屋が描かれています。

わたなべこういち▼専門はアーカイブズ学と歴史学です。ここ一〇年は江戸の災害史を研究しています。自然と人間の相互浸透的な関係を分析することにより、私たちが生きている現在の社会のあり方がこのままでよいのか、根本から考え直そうとしているところです。



# 23『諸用扣(留)』

▼推す人

太田尚宏 (准教授)

地域の歴史にとって

大切な文書を

どう残すのか。

資料館はそのための

機関でもあります

「」の古文書は、現在の東京都多摩市連光寺にある富沢家に伝わり、昭和三〇(一九五五)年に当館へ寄贈されたものの一部です。「諸用扣留」二八冊としてまとめられたこれらの帳面は、文化庁安政期(一八〇四～一八〇六)の当主であった富沢忠右衛門昌徳(後に魯平と改名)が村内外の行政や家の経営に関するさまざまな案件を書き留めたものです。

この古文書の写真が、平成二六(二〇一四)年度に実施された大学入試センターの「日本史B」の試験問題に採用されました。上の写真は、試験問題と同じ構図で撮影したものです。入試問題ですから事前に掲載を知らされることはありません。公表された試験問題を見て、館内の関係者が一様に驚いていたことを思い出します。試験の問題文では、都市化が進んで、こうした古文書が廃棄・散逸する危険が増したため、各地に文書館を建てて保存するようになったという記述もありました。地域の歴史にとって大切な文書を永年にわたって残し、活用していくアーカイブズ機関の役割について言及してくれていたのです。

おおた・なおひろ▼専門は日本近世史。江戸幕府や諸藩による地域政策の中でさまざまな利害調節をする代官などの動きに関心があります。いま凝っているのは、尾張藩の御山守の日記。公務だけでなく生活の様子がこまごまと書かれていて、まるでホームドラマを見ているようです。





24

## 渋沢栄一、

## 帽子への愛着

▼推す人  
青木 睦 (准教授)

〇二四年、一万円紙幣に、渋沢栄一が描かれます。その栄一しやうさく へいいちの身長は、五尺、一五一cm、と小柄ですが、人々の脳裏には、雄気堂々としたシルクハットを冠する栄一の姿を思い描かせ、晩年のマントに帽子、杖をさす姿が遺されています。当館には栄一の帽子が四点あり、老舗帽子ブランドであるNew Yorkの「KNOX」と、明治二二（一八八九）年に栄一が發起人となった日本製帽株式会社を前身とする「TOKIO HAT」のシルクハット・山高帽やまたかぼうである。

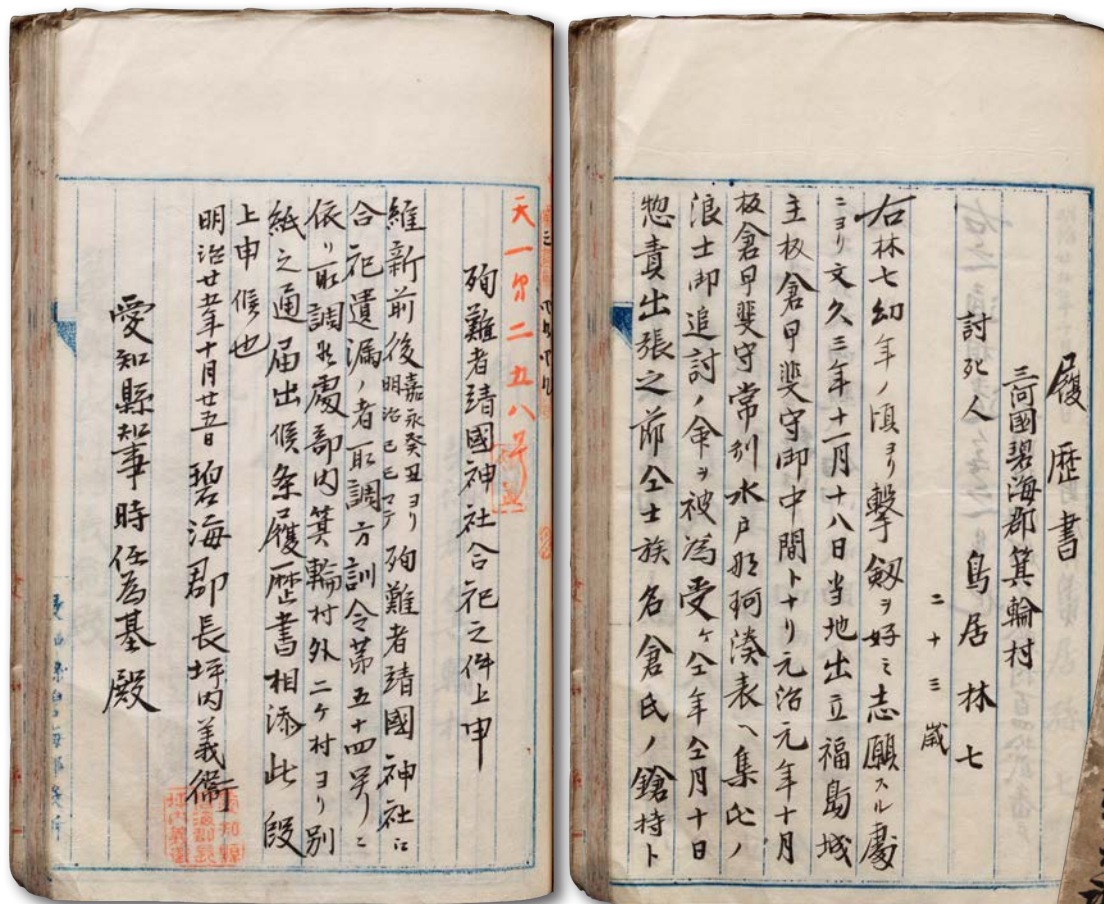


渋沢栄一の遺品約二〇〇点は、栄一の死去後、北区飛鳥山公園内に「渋沢青淵翁記念実業博物館」（青淵は栄一の雅号）として建設する予定となり、昭和一二（一九三七）年には日本実業史博物館内の「渋沢青淵翁記念室」として展示することになりました。この博物館を構想したのは、栄一の嫡孫で大蔵大臣を務めた渋沢敬三しやうさく けいぞうです。残念ながら、戦禍により設立がかなわず、昭和

二六（一九五二）年に文部省史料館（旧・国文学研究資料館史料館の前身）に一括寄託され、昭和三七（一九六二）年、正式に寄贈となり、「日本実業史博物館旧蔵資料」（総件数一八五七件・三七、八五三点）として収蔵されています。ぜひ当館HP電子資料館をご覧ください。

その帽子が  
いまここに  
ある理由とは？

あおき・むつみ ▼ アーカイブズ学での保存論を専門としています。国文学研究資料館の業務・研究に携わって四五年、今年度定年を迎えます。当館の品川区戸越時代、収蔵施設管理の実践から、保存マネージメントの基本を学び、その知技能を立川移転での保存・活用環境管理に役立てました。収蔵資料は主として紙・和紙ですが、ここで紹介した器物資料の保存やデータベースの整備に努めてきました。



# 25『招魂社綴』

▼推す人  
加藤聖文（准教授）

近代国民国家建設を目指した明治政府は、人びとが「国民」に目覚めて「日本」と

いう共同体意識が作られ、国家建設に邁進することを求めました。近代の産物である国民意識は、歴史を共有することから生まれます。そして、その歴史の多くは戦争と結びついています。日本でも草莽の志士が掘り起こされ、戊辰戦争の戦死者が靖国神社に合祀されるこ

とを通じて、幕末維新の争乱が国民の歴史として共有されていきました。愛知県庁文書にある「招魂社綴」は、明治以降の人びとのかに国民意識が何をきっかけにして芽生え、どのように広がっていったのかを明らかにしています。

かとう・きよふみ▼日本近現代史が専門。政治外交史・軍  
事史から思想史まで幅広く扱っています。今は敗戦  
による日本の植民地からの引揚と戦争によって発生す  
る民族移動について世界各地で調査を行い、グローバ  
ル・ヒストリーの視点から研究しています。国文研で  
は歴史学の他、アーカイブズ（歴史記録）を対象とし  
て、戦争記録の保存、世界と日本の公文書管理、アーカイ  
ブズを通じて市民への普及活動などに取り組み、メディ  
アを通じて多くの成果を発信しています。

わかる文書

作られる経緯が

共同体意識が

日本国民という



1.実展示屏風をガラス越しに認識した  
絵図の大きく綺麗な画像  
『伊勢物語図屏風』



2.画中の台詞の翻刻  
『福富草紙』



追加デジタル情報：場面の和歌



(業平君と記念写真)



3.挿絵場面の現代語訳  
・英訳・読上げ  
『伊勢物語』  
奈良絵本v.s. 嵯峨本



かざす



全挿絵の  
デジタル展示

かざす

# 26 古典AR

▼推す人

北村啓子（准教授）

展示資料の

情報を受取れる

ビジュアルガイド

興味の赴くまま

ご覧ください

『古典AR』で何を思い浮かべますか？ 古典資料の気

になるところにスマホをかざしてデジタル情報を受取れる展示のビジュアルガイドを開発しました。

1. 肉眼より大きく綺麗に見えるデジタルギャラリースコップ、2. くずし字に重ねて翻字テキストを読む、3. 現代語訳・英訳・解説などを読む・聞く、等々の機能で展示内容の理解を深く助けます。

ARの画像認識技術を使い、任意のくずし字・絵図など資料中の特定部分にアクセスできるのが特長です。興味の赴くままに能動的に資料を探索・鑑賞しましょう。展示では見られない頁はデジタル展示で全頁、全巻をデジタル画像で。

原資料でもデジタル画像でも印刷でも反応するのが強みです。当館HPでも体験

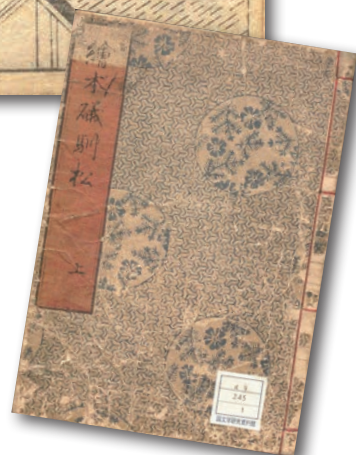
できます。

できます。



古典に親しむでじたる展示を  
古奥に親しむでじたる展示を  
古奥に親しむでじたる展示を

きたむら・けいこ▼デジタルヒューマニティーズ、情報科学。人文分野で計算機を活用するための新しい技術開拓に取り組んでいます。デジタル展示、電子図書館、各種DBシステム構築に携わり特に古典資料を扱うUI（ユーザインタフェース）にこだわっています。



# 27 『絵本礎馴松』

▼推す人  
松田訓典（准教授）

古典籍の  
デジタル画像や  
情報を  
活用してみよう

私

は主に古典籍のデジタル化とその利活用  
に携わっています。古典籍の専門家では  
なく推しといえるものではありませんが、当  
館の業務で私が最初にふれた中の一冊を取り  
上げてみました。本書がどういう作品なのか、  
「日本古典籍データセット」(<http://codh.rois.ac.jp/mjt/book/200021998/>)で簡単に調べること  
ができます。解題を次に掲げます。

【解題】（日本古典籍データセットより）

絵本。序文によれば、在原業平と小野小町が  
互いに世の中の稀なることを歌に詠み競った  
ものとある。西川祐信は江戸中期の浮世絵師  
で、『絵本玉かづら』・『絵本常盤草』などを手  
がけている。

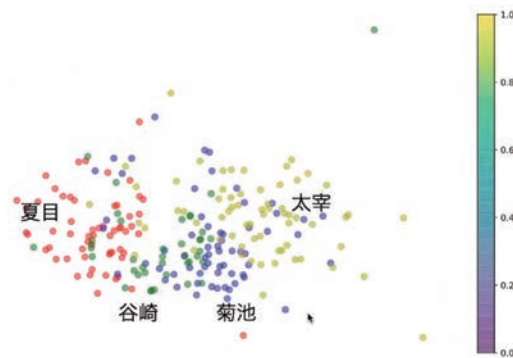
まつだ・くにのり▼主に古典籍のデジタル化とその利活用  
に携わっています。古典籍の専門家ではなく推しとい  
えるものではありませんが、当館の業務で私が最初に  
ふれた中の一冊を取り上げてみました。



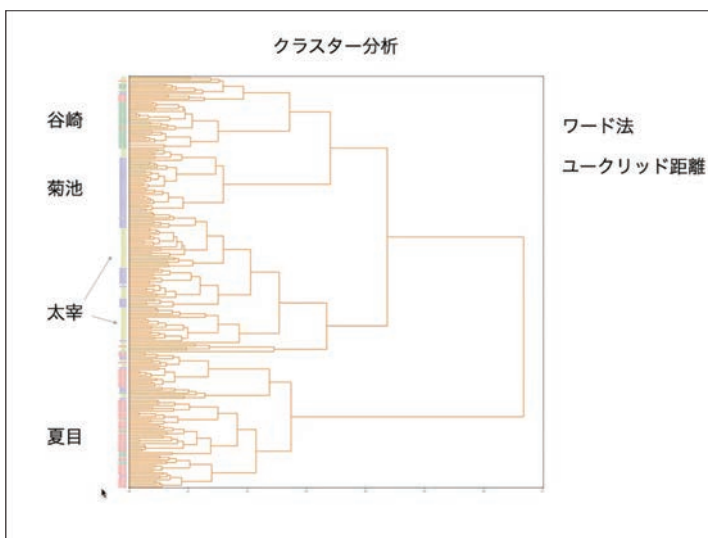
t-SNE



PCA



高次元圧縮アルゴリズム (t-SNE) による近代文学 303 作品の自動分類と可視化。著者と作品がほぼ一致していることが確認できる (図中の各点はそれぞれ 1 つの文学作品を表す)。



主成分分析 (PCA) による近代文学 303 作品の自動分類と可視化。著者と作品との対応付けが t-SNE に比べ劣っている。

ワード法による同作品群のクラスター分析。著者別のグループ分けがある程度成功しているように見えるが、t-SNE よりクリアではない。

特徴を掘み出す

作品・作者の

情報から

表層的な

テキストの

▼ 推す人  
野本忠司 (准教授)

# 28 計量文体学

**計**量文体学は、文学作品を内容ではなく、文字の並びなど、テキストの表層的な情報から作品、作者の特徴を掘み出そうというのが狙いです。日本では一九五〇年頃から始まりました。当時はコンピュータが一般に普及していないため、人手で文字を数えるという今から考えると、めまいがするほど

途方もない作業を研究者は地道に行っていました。ビデオでは、最新の研究方法を紹介しています。当時は結果を出すまで何年もかかっていたことが数分できるようになりました。テクノロジーの進化の速さに驚くばかりです。

のもと・ただし ▼ 奈良先端科学技術大学院大学 博士 (工学)、上智大学外国語研究科 修士 (言語学)。日立製作所基礎研究所を経て現職。数理、計量言語学、自然言語処理、電子図書館、情報検索等の研究に従事。自然言語処理学会、情報処理学会、ACL、ACM 会員。

## 古典籍ネットワーク構造の推定

(スパースモデリング)

NMF: Nonnegative Matrix Factorization

$$y \cong HU$$

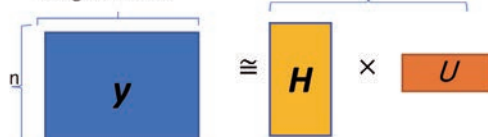
$$\min_{H,U} \{\|y - HU\|_2^2\}$$

subject to sparsity(H)  
sparsity(U)

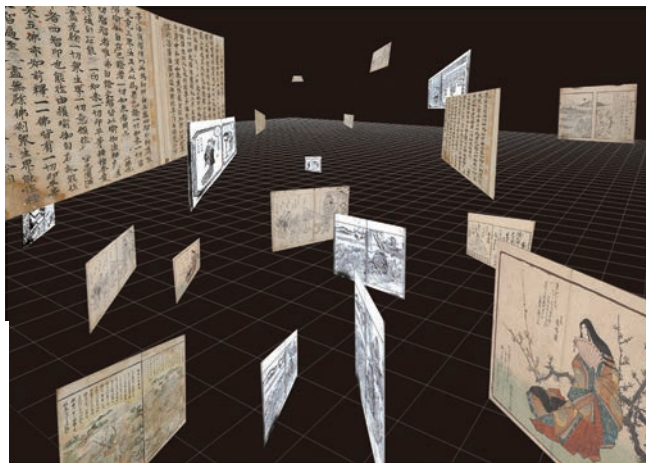
estimated matrix



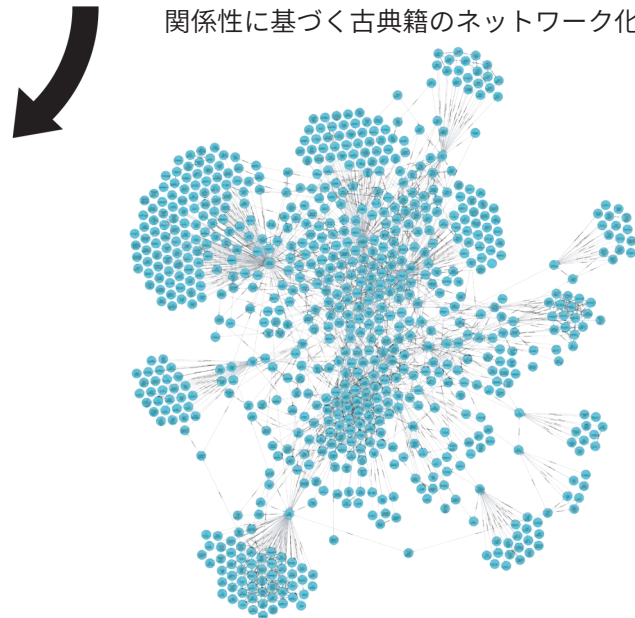
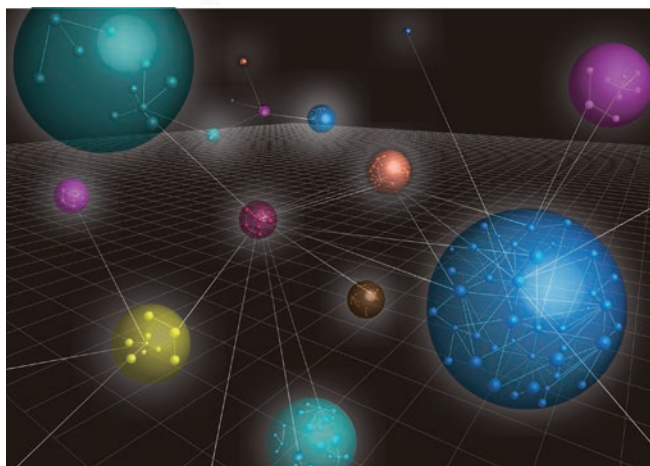
Length of links:



n: Num. of access logs



関係性に基づく古典籍のネットワーク化



活用する技術

構造を推定し

古典籍全体の

情報の断片から

▼推す人  
本多啓介 (特任准教授)

# 29 古典籍ネットワーク構造の推定とIR活用

学

術文献は書名、著者などのメタ（書誌）情報によって分類されます。古典籍にはさらに刊写、装丁など物理的な情報が研究の対象として重要な意味を持ちます。個々の書誌情報同士をなんらかの『関係』に従って線と線で繋いでいくとネットワークが現れます。例えば、書誌データベースの検索履歴は研究者の学術的興味が背後に潜在するネットワークデータと言えます。このような情報の断片から古典籍全体の構造を推定することができれば単純なメタ

検索とは異なる知見が探索的に得られます。この統計的モデリングの手法で得られた結果を書誌データベースの整備状況と潜在的な研究者ニーズを測る「指標」と捉えることで、IR (Institutional Research) に活用することができると考えています。

ほんだ・けいすけ ▼二〇〇八年総合研究大学院大学統計科学専攻卒業後、民間でソフトウェアエンジニアとして活動したのち、二〇一三年から情報・システム研究機構にてUR Aに従事、二〇二〇年から国文研究部特任研究員を兼務しています。モータースポーツと映画が好きです。



1936



出典：https://mdc.csuc.cat/digital/collection/afceccat/id/19496  
(Memòria Digital de Catalunya)

1957



出典：https://catalogarxiunicipal.bcn.cat/ms-opac/permalink/1@1576994

2019



(執筆撮影)

データ分析する

読書振興に着目し

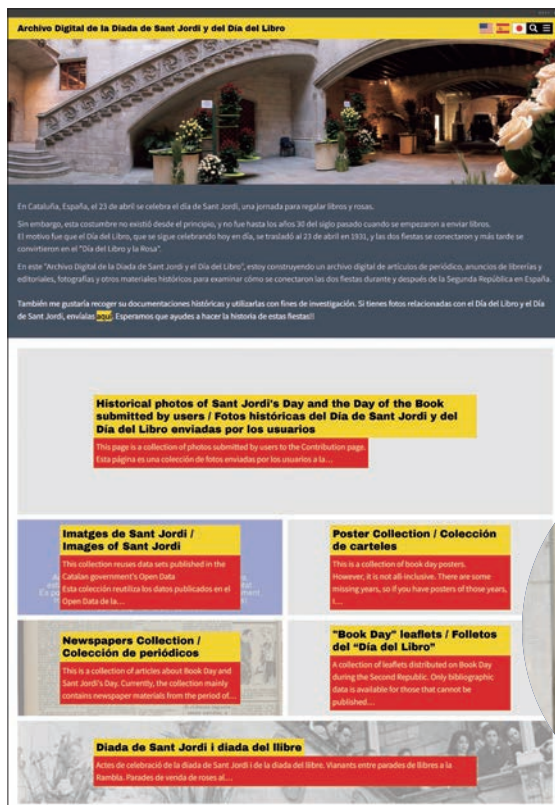
本の祭の歴史を

スペインの

▼推す人  
菊池信彦  
(特任准教授)

# 本とバラの日からのぞく 読書文化史

30



Archivo Digital de la Diada de Sant Jordi y del Día del Libro  
「本とバラの日」デジタルアーカイブ（執筆者作成）  
https://projectsantjordi.net/da/



サン・ジョルディ

出典：https://www.flickr.com/photos/genca1\_cat/32671022747/in/album-72157704584326132/

きくち・のぶひこ▼専門は西洋史（スペイン近現代史）を出発点に、デジタルヒストリーやデジタルヒューマニティーズという分野で、歴史学におけるデジタル技術の活用をテーマに研究をすすめています。特に、現代スペインのお祭りである「本の日」と「サン・ジョルディの日」を中心とした読書文化史の研究が現在のメインテーマです。そのほかにも、歴史学の研究成果を専門外の方に向けて発信し、また、市民のなかの歴史学を研究するパブリックヒストリーという新しい分野の研究にも取り組んでいます。

毎年四月二三日、スペインの街バルセロナは本とバラに包まれます。この日は、スペイン文学の王である文豪セルバンテスが亡くなった日を記念する「本の日」であると同時に、バラを贈り合う「サン・ジョルディの日」というバルセロナのあるカタルーニャ地方の聖人の日でもあるからです。ですが、この二つのお祭りが重なったのはそう遠い昔のことではありませんでした。私の研究では、二つの別々のお祭りが、共和政から内戦、そしてフランコ独裁を経て民主化へという時代の流れを通じて、どのように結びつき、そして日本を含む世界へと広まっていったのか、読書振興に着目しつつ、データ分析の視点から調べています。

## 産学界のデータを学術研究目的で提供

オープンデータにはできないデータを、適正な管理の下で、契約に基づき提供



## 研究成果の公開



研究成果発表数の推移

## 評価型WSの企画運営

NTCIR

NTCIR: 情報アクセス研究のためのテストベッドとコミュニティ



↑ NTCIR-13の例

- ・ NTCIRワークショップ  
- 1年半サイクルでタスクを実施  
- 共有テストコレクションを構築
- ・ NTCIRカンファレンス  
- 各参加チームの成果を比較評価
- ・ テストコレクションの公開

## 交流の場の提供

「IDRユーザフォーラム」の開催



↑ データ提供企業登壇のパネル



↑ データ利用者のポスター発表

31

# 研究用データセットの 共同利用のための エコシステム

▼ 推す人

大山敬三 (客員教授・古典籍データ駆動研究センター長/国立情報学研究所教授)

近年、オープンサイエンスの重要性が強調され、研究データの活用に対する社会からの期待も高まっています。しかし、「使える」研究データはデータを

を作った当の研究者にとっても貴重な財産であり、そう簡単に他人に使わせられるものではありません。著作権や個人情報情報が絡めばなおさらです。これは民間企業と同じことです。そこで、データの提供・利用のルールを整備し、利用者を適切に把握・管理し、データ利用による成果を可視化すること、データ作成・提供者の貢献を正當に評価するとともに、データの作成者と利用者のコミュニティを形成して情報や技術の交流を図ることによって、エコシステムの構築を目指しています。

おおよま・けいぞう ▼ 本務は国立情報学研究所教授・データセット共同利用研究開発センター長。

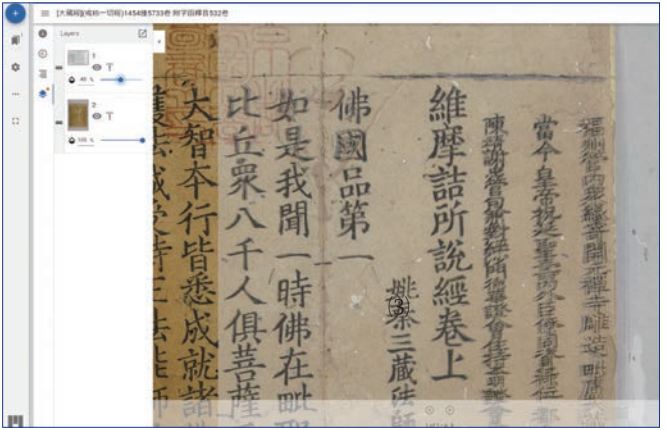
専門は情報学で、情報検索やWeb情報分析などの研究を行ってきました。大学共同利用機関らしい研究活動を追い求め、Webデータコレクションの構築とワークショップでの共有を実践する中で、研究用データセットの共同利用の重要性を痛感したことから、約一五年前に活動を開始し、以来、少しずつ活動の輪を広げながら現在に至っています。

データ提供の  
環境を整備  
作成者と  
利用者を  
つないでいく





(1)



(2)



(3)



(4)



(5)

32

# デジタル技術による

# 研究環境の発展

▼推す人

永崎研宣（客員教授／一般財団法人人文情報学研究所首席研究員）

## 仏教学のための 研究環境を開発

す。最新の研究はすぐにネットで共有され、その根拠資料もデジタルで公開されることで、研究上の利便性を高めるだけでなく、研究成果が誤りでないことを証明する材料の一つにもなっています。古典籍の研究においても、(1)各地の貴重資料を並べたり(2)重ねたりして比較し、(3)テキストを全文検索して各資料の対応箇所の画像を閲覧したり、(4)古典テキストと現代語訳を往復してみたり、(5)人工知能技術で言葉の位置づけを解析できる仏教学のための研究環境を二〇一八年に公開しました。現在はさらにそれを発展させるべく研究と開発に取り組んでいます。

ながさき・きよりの▼本務は一般財団法人人文情報学研究所首席研究員。仏教研究を踏まえ、それを含む古典籍のデジタル研究環境を構築するための技術や規格、制度等に関する研究と実践に一九九五年から取り組んできており、現在はデジタル・ヒューマニティーズと呼ばれる国際的な潮流に即して活動を行っています。人文研究者の仕事が適正にデジタル時代に継承され、さらに発展していける環境の実現を目指しています。

# （ 国文学研究資料館の デジタルコンテンツ ）

国文研にいかなくても古典籍や古文書について知ることができる！  
当館では、古典籍や古文書を活用したデジタルコンテンツや動画を  
制作しています。ぜひご活用ください。



## 電子展示室「和書のさまざま」

当館の展示室で開催している  
展示を Web 上でも楽しめる  
デジタル空間の展示室です。



## 古典籍画像を使う

WEB 会議の背景、国語や歴史  
の授業、ブックカバー。仕事で、  
日常生活で、お使いいただけ  
る画像をご用意しています。



## くずし字を読む

くずし字が読めれば、世界が  
広がる！ ぜひ挑戦してみま  
せんか？



## 国文研 YouTube

国文研ってどんなところ？  
さまざまなイベントや、研究  
者たちの活動を動画で見てみ  
ませんか？



〈推し〉の一冊  
紹介動画も  
こちらからどうぞ



# 第一章 国文研をひらく

蛙

宿を飯草

人つゝにくゝけと首と

うりけり

かりめつらん

あつちそ

うさ

こもひ

小簾苅伎

あられもこよ

あつちの

こもひ



## ■はじめに

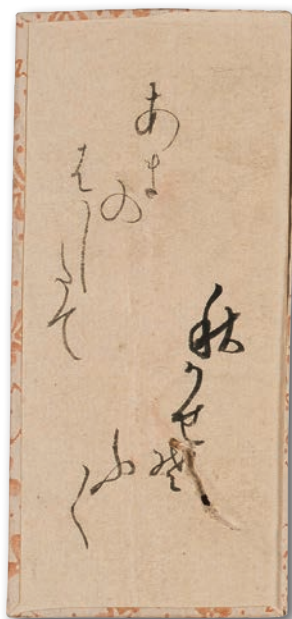
**古** 来日本人は四季の移ろいを敏感

に感じ取り、さまざまに表現してきました。和歌や俳句では、虫や鳥の声、風の音、時には蛙が水に入るかすかな音にさえ耳を澄ませています。本の中にも小さな宇宙を再現しています。肉筆に比べて制限の多い版画でさえ、洗練された瀟洒な美意識が籠められていることには驚くほかありません。

## 『画本虫撰』



## 『内裏名所百首』



ています。

『画本虫撰』

(No.30) は、天明八(一七八八)年に刊行さ

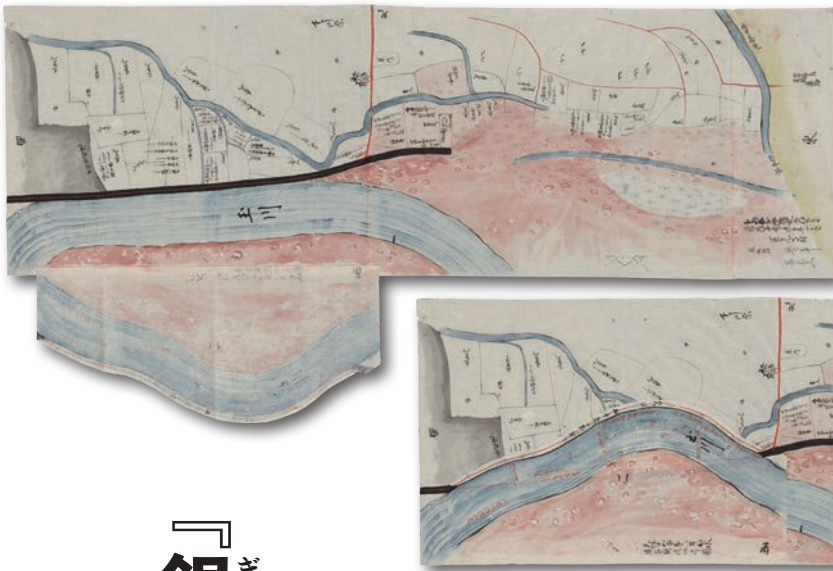
れた喜多川歌麿筆の狂歌絵本です。虫をテーマとした多色刷りの版画に狂歌を配しています。虫とは言っても、蛙や蛇も描かれているのですが、虫偏であることが示すとおり、当時の分類では虫の仲間だったのです。掲出の図は蛙と黄金虫。左下の蛙は蓮の葉に隠れています。水面に映った姿も表現されています。

『内裏名所百首』(No.29) は、建保三(一二二五)年に順徳天皇が、藤原定家ら十一名の歌人に百首和歌を詠ませ、自らも詠んだもので、名所の題ばかりで一〇〇首を構成する、史上初の試み。写本は少なくないのですが、かるたにしたものは多くはありません。順徳天皇の一〇〇首だけを、上句・下句それぞれで札を分かち、上句の札にはすべてその名所の絵が添えられ



Before

After



## 『銀世界』



## 『詩文』

雲霧去來陰又晴人忘煩暑洗塵襟  
千林爽氣送九夏一味新涼抱立明  
露入綠林青女未風牽銀  
竹赤行清談聞江潮  
詒午寂絕勝良雨聲

和堅

# 「天保十五辰年八月出水堤百間程切込ノ図」

てんぽうじゅうご たちどしはちがつしゅつすい

さまざまなテーマと技法で  
表現される自然のすがた

『銀世界』(No 31) も歌麿が描いた絵本です。こちらは雪をテーマにしています。唐子が雪遊びをしている様子は、楽しそうですね。獅子の雪だるまを作っていますが、輪郭が描かれていません。これは、空刷りという技法で、色を使わずに凹凸だけで図柄が表現されているのです。真っ白な雪を表現するにふさわしい技巧だと言えるでしょう。

『詩文』(No 32) は、肥前鹿島藩の藩主であった鍋島直條をはじめとして、林鳳岡など江戸時代前期の文化人一人の詩文が収められた巻子本。注目したいのは用いられている紙です。詩箋と呼ばれるもので、ワンポイントの絵が入った便箋です。この絵は多色刷りの木版画で、『銀世界』で用いられている空刷りの技法も使われています。当時まだ日本には多色刷りの版画はなく、中国から輸入された貴重品でした。これらが、後の浮世絵版画に影響を与えたと考えられています。

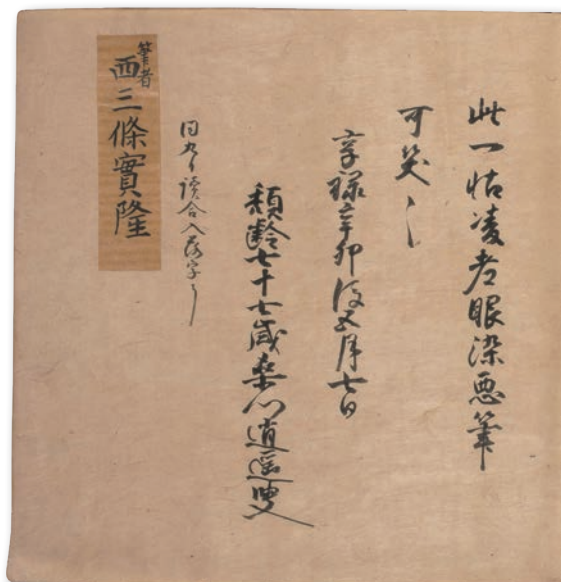
武蔵国多摩郡連光寺村(現在の東京都多摩市連光寺)はしばしば多摩川の氾濫に伴う水害に遭いました。川の氾濫が発生した際、どの範囲に河道が変化したが、どの土地が被害を受けたかといった内容の絵図が作製されたのですが、『天保十五辰年八月出水堤百間程切込ノ図』(No 33)は、天保一五(一八四四)年八月に連光寺村の「出水(洪水)」によって堤防一〇〇間(約一八〇メートル程度)が破壊され、被災した土地を掛紙で表現したものです。掛紙とは、一枚の紙の上に別の紙を貼付することで、土地の状況のビフォーアフターを表現したものです。



# あの人が書いた文字

## ■はじめに

**当** 館には、いわゆる有名人が書いた古典籍や古文書が多く所蔵されています。「あの人」はどんな気持ちで筆を取ったのか、何文章を書いたのか、何を思っていたのか。活字や印刷物になってしまくと味わえない「あの人」の感情を、何百年も時間をさかのぼって直接味わってみてください。



## 『源氏物語』

げんじものがたり



## 『渋沢栄一日記』

しぶさわえいいちにつき

『源氏物語』(No. 34)の全一六帖のうち一五帖は

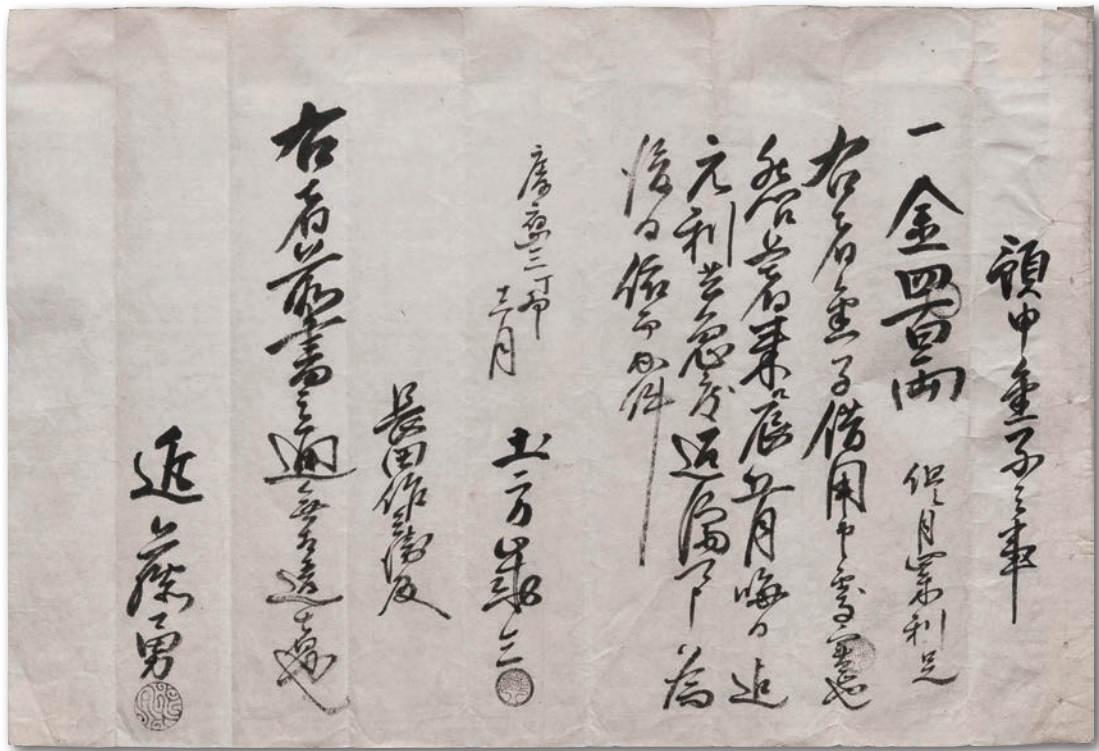
源氏物語研究において榊原本と称される鎌倉時代中期の貴重な写本です。「桐壺」一帖だけは室町時代以降に書写されたものですが、その書写者は公家で当代きつての文化人であった三条西実隆です。和歌を学び、古典の普及に努めた彼は戦乱のなか多くの本を収集、書写し、後代に継承しました。

『渋沢栄一日記』(No. 35)

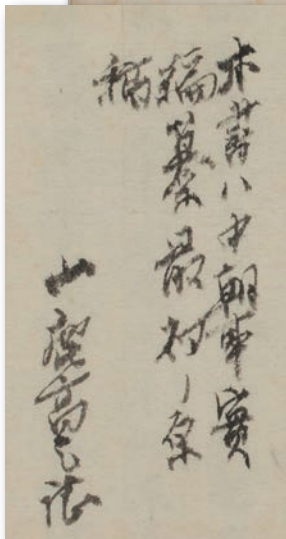
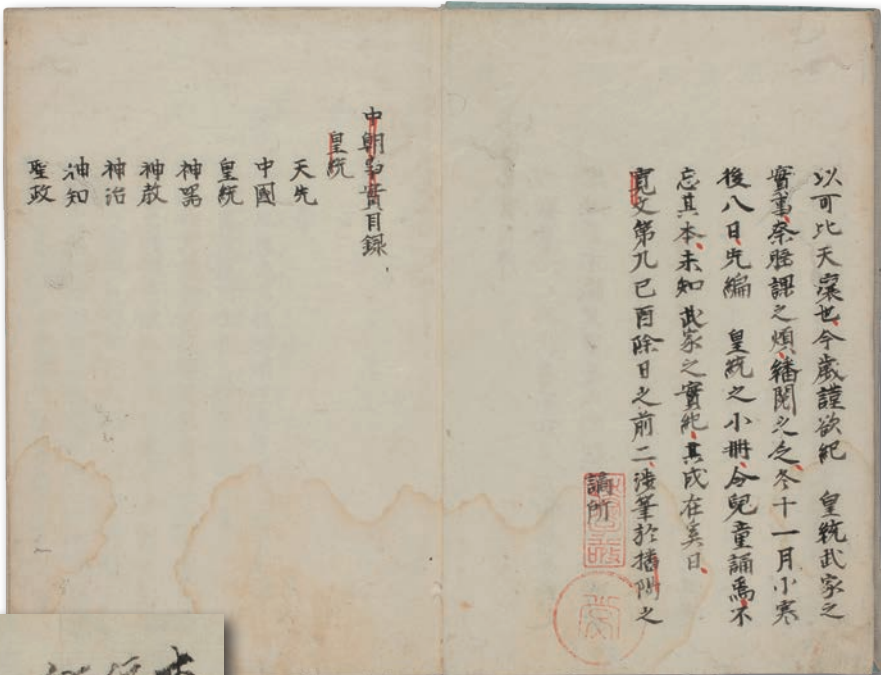
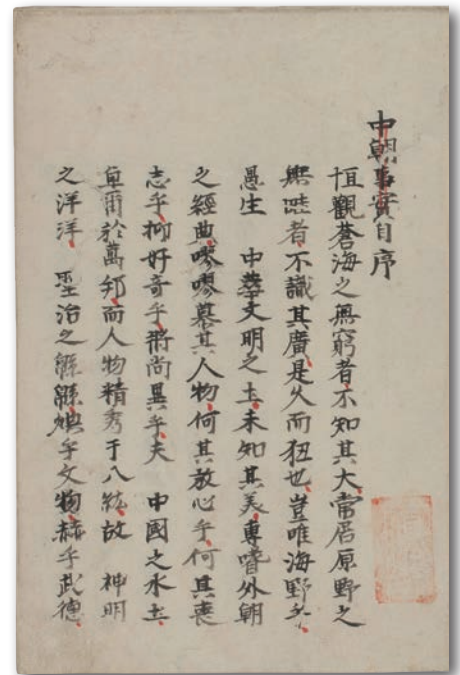
は、二〇二一年のNHK大河ドラマ『青天を衝け』で主人公だった渋沢栄一の日記です。彼の日記は慶応四(明治元(一八六八))年から昭和六(一九三一)年までの三〇冊を所蔵しています。最初の日記は渋沢栄一が徳川昭武(第一五代將軍徳川慶喜異母弟)とともにパリ万国博覧会へ訪れ、ヨーロッパ歴訪中に新政府からの命令で帰国する時期から始まります。



# 土方歳三金子借用証文



「あの人」の感情を  
時間を超え、直接味わう



## 『中朝事實』

ひじかたごうさんすしやくようしやうもん  
**土方歳三金子借用証文 (No. 36)** は、  
 せつのかくにおおさかたまみずらふようかじまやあだたけもじよ  
 撰津国大坂玉水町加嶋屋長田家文書  
 の一つ。大坂において米仲買や両替商  
 を営んだ長田家は、慶応三（一八六七）  
 年冬に新撰組の**土方歳三**が軍費調達の  
 依頼をしています。土方が金四〇〇両  
 を調達し、新撰組の組長である近藤  
 勇が奥書を据えています。果たして土  
 方は何を目論んでいたのか、そもそも、  
 それとも土方本人の筆なのか、多くの  
 研究素材を与えてくれる一枚です。  
 やまがそこう **『中朝事實』 (No. 37)** は、  
 山鹿素行 **『中朝事實』** (No. 37) は、  
 近世前期の軍学者、山鹿素行の自著自  
 筆清書本（重要文化財）。朱子学を批  
 判する『聖教要録』（寛文五年刊）を  
 刊行したことで幕府の忌諱に触れ流罪  
 となった素行が、流謫中に執筆した主  
 著の一つです。日本こそが「中朝」す  
 なわち「中華」「中国」であるとする  
 日本中心の史観を主張しています。



## ■はじめに

ここでは、物語を彩る豊かな挿絵の世界についてご紹介します。

室町時代の挿絵入りの本といえば、まず奈良絵本をあげることができるでしょう。絵巻、特大本とよばれる大型のもの、横型半紙型のものなど、大きさにはバリエーションがありますが、寛文・延宝頃（一六六一—一六八〇）から、サイズも挿絵の描き方も画一化されていきます。

奈良絵本として制作された作品は、お伽草子という短編の物語草子が主流でしたが、次第に王朝物や芸能のジャンルの作品まで挿絵を伴うようになり、それらの作品は江戸時代に草子として出版され、流通していきます。

## 『住吉物語』

すみよしものがたり



## 『大橋の中将』

おおはし ちゅうじょう



『住吉物語』(No.38)は、

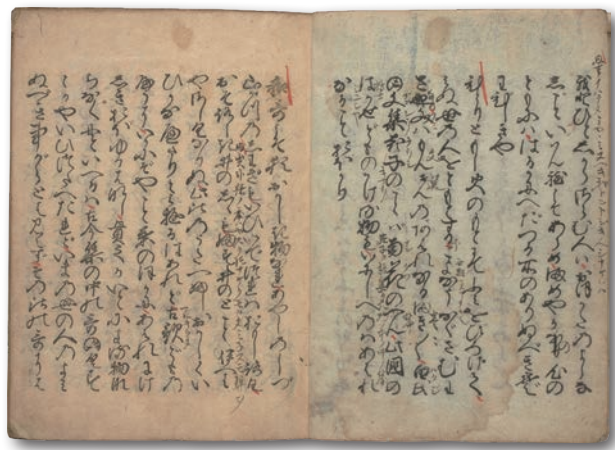
江戸前期書写の大型の奈良絵本。継子いじめの物語で、平安時代に原作が成立したものの散逸し、その後鎌倉期に改作されたものが流布し、絵巻や奈良絵本、さらに古活字版、絵入りの草子などの版本としておびただしい数の伝本が生み出されました。

『大橋の中将』(No.39)は、

鎌倉幕府に幽閉された父を探して旅する幼子の苦難と、法華経の霊験を描いた物語で、江戸前期に制作された典型的な横型奈良絵本です。『大橋の中将』の伝本は法華経の功德に関する記事をもつお伽草子系と、江戸初期に流行した古浄瑠璃の本文をもつ語り物系の二系統が知られています。が、国文研本は、お伽草子系の中で唯一の完本として貴重です。



# 『徒然草』



# 『阿弥陀胸割』



『伊勢物語』の  
どこを使っ  
ているのらう？

# 『舞の本』



# 『伊勢物語』



室町末期から江戸初期のごくわずかな期間に、古活字版とよばれる印刷技術によって本が印刷され、流通しました。当初は『徒然草』(No.40)のような本文のみの形式でしたが、次第に挿絵入りの本にとって代わってゆきます。

特に『伊勢物語』(No.41)は、本阿弥光悦の流麗な書体やそれに類似した書体の版下によって刷られた「嵯峨本」と呼ばれる版本で、京都の嵯峨に住した角倉素庵が出版に関わり、料紙や装訂に工芸的な意匠をこらした美本として知られています。この嵯峨本『伊勢物語』は、のちに印刷される挿絵入りの草子に多大なる影響を与え、物語内容に関係なく挿絵が他作品に流用されるなどの現象を生み出しました。

『舞の本』(No.42)は、嵯峨本の挿絵の流用が随所にみられる絵入り本で、武家に愛好された語り物芸能である幸若舞曲の台本を読み物化したものです。当初は古活字版で流通したとみられますが、挿絵を伴った整版で出版されると、たちまちベストセラーとなり、版本を元にした絵巻や奈良絵本が多く制作されました。

また、当時は珍しかった説経や古浄瑠璃などの語り物の草子も絵入りで出版されました。『阿弥陀胸割』(No.43)はその一書で、慶長頃にたたび上演記録がみられる説経、古浄瑠璃の演目の一つ。少女が親の菩提を弔い、幼い弟を養うために自らの心臓を差し出す物語です。

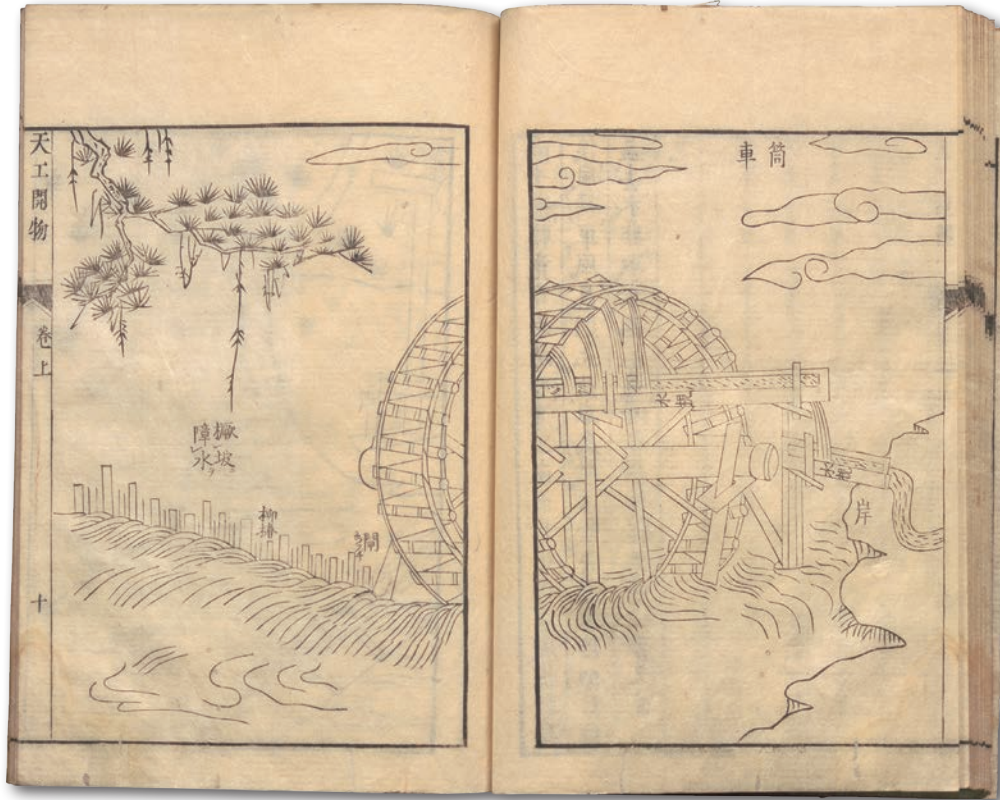
印刷技術によって  
変わる挿絵のかたち



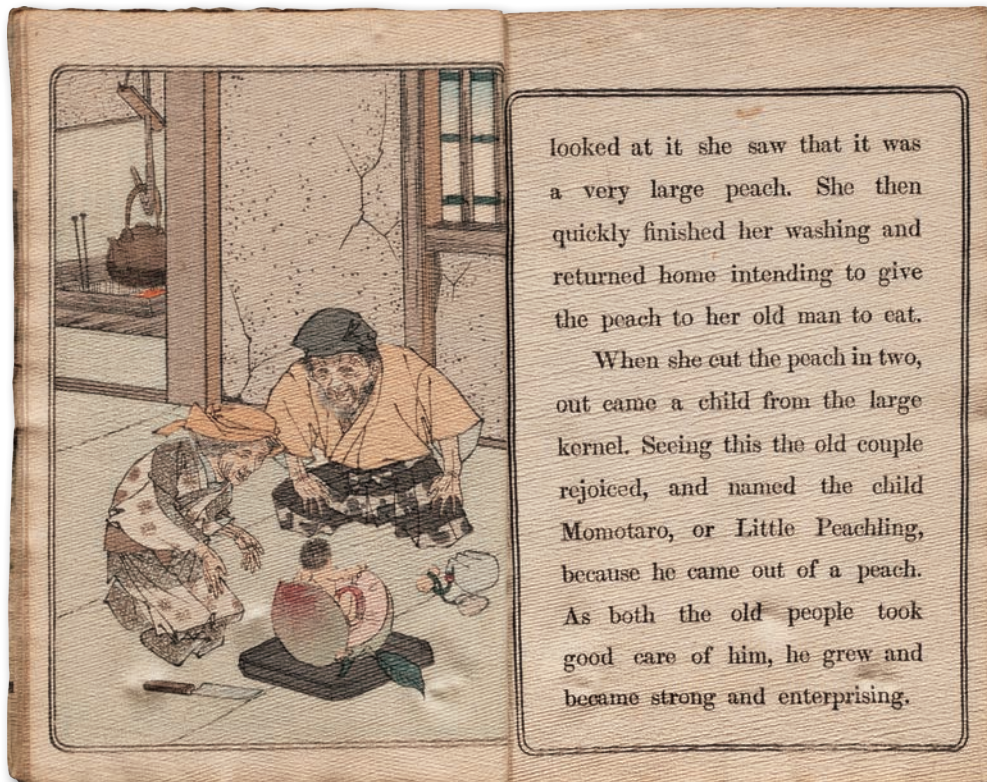
## ■はじめに

**江** 戸時代は鎖国さこくの時代と言われてきました。しかし、海外からの情報は多く入ってきており、その影響も大きかったと考えられています。その痕跡こんせきは書物にも見ることができ、特に医学や科学などの実用的な分野では顕著です。『解体新書』かいたいしんしょ（安永三あんえい（二七七四）年刊）はよく知られているものでしょう。ここでは、いくつかの興味深い例を紹介します。

## 『天工開物』てんこうかいぶつ



## 『Momotaro』



西洋の考え方を受け入れるだけでなく印刷技術をも採り入れ、近代化は進む



# 『外科学教程』 (Heelkundige onderwyzingen)



574 Van de heelkundige Konstbewerkingen.  
quaden zouden ontfaan (B). Wanneer de *finne* niet op de plaats, daar de *an-*  
stake zal geschieden, uitgevallen heeft, moet hy, eer de kunstbewerking on-  
dernomen wordt, zyne gereedchappen, en 't geen noodzakelyk is, ge-  
reedyk maken, en de werktuigen op de eene, en het verband op een an-  
dare grote schotel of plank in order leggen: dog sulks niet in het  
verreken van den Patient, op dat hy daar door niet verbaalt worde.

4. Het gereedchap van den Heelmeester zal in het volgende be-  
staan: 1) moet by een draaiing hebben, dat in de vermindeling der  
wonden op de 33. bladzide beschreven is (C). 2) Een gaasen band van  
een vinger breed, en ontrent eene half el lang. 3) Een klein mes, om  
de huid door te snyden. 4) Een groot krom mes, om het nog overige  
vleesch door te snyden; zie Tab. IX. fig. 3. 5) Gebruiken eenige een  
spits tweefyndend mes, om het vleesch tusschen de grote en kleine  
clieppyp door te snyden fig. 4. 't welk evenwel ook gevoeglyk met  
een snydend mes kan geschieden. 6) Een jinnen kap, drie span-  
nen lang en zes vingers breed, die aan 'teene cinde tot aan het mid-  
den moet gespleten zyn, Tab. II. fig. 17. 7) Een goede beenzaag, Tab.  
IX. fig. 5. (D). 8) Eenige knopjes van varriool, in boomwol of plak-  
zal bewoonden (E). 9) Eenige verriane drukdoeken, veel plukzel, als  
weede wiken van werk: of in dezelfde plaats een groot stuk goe-  
de doff. 10) Een bloedstempend poeder, of nog beter van de beste  
brandewyn, of sterfte terpenynty in een schoteltje voor het bloe-  
den.

(B) De voornaamste reden, waarom  
men in de gewigten niet behoort te an-  
punteren, is, als reets is gemeld, om dat de  
krakbeente dekselen onmogelyk hou-  
den dekken, en daarom niet kunnen he-  
len. 'ten ware het kraakbeen van zelf  
komt te schieden, of sulks door beunding  
bevoerdert word.

(C) Ziet myne afbeelding van 't Tour-  
nequet met de schroef Tab. 3. fig. 9. op  
welkers aangeleg moet gelet worden,  
en vooral, dat de beide ienen in n. even-  
redig geschaen staan, op dat de eene  
niet meer als de andere heeft te lyden;  
zo als by de operatie van rekt ampu-  
lyk Heer geboorde, by welke, zo als ik  
aande opereren, door onbedachtz an-  
haling en te sterk schooren van een Heel-  
meester een riem insloede, zo dat de  
gehete fisting op een rim aanquam.

(D) Hier toe moet men een krom, wel-  
getemperd, dik aangehepen en spits in-  
metje gebruiken, wat mede men veel  
beter tullen en om de beuypen het vles  
kan wegema. Ziet deszelfs afbeelding  
S. T. verbeet.



山形屋版 (木版)



永楽屋版 (銅版)

# 『瘍科精選図解』 ようかせいせんずかい

『天工開物』(No. 44) は、一七世紀初頭に中国の宋  
応星が著述した技術関係の書物です。中国ではあ  
まり読まれなかったようですが、日本では明和八  
(一七七二)年に和刻(外国から輸入した原書を日  
本で再製作すること)され、影響も大きかったもの  
です。

『瘍科精選図解』という書物があります。『外科学  
教程』(原題: Heelkundige onderwyzingen) (No.

45) という外科手術の教科書を伊勢の蘭方医越村徳  
基が翻訳しました。名古屋の永楽屋と伊勢の山形屋  
の二軒の本屋から出版されていて、それぞれ版式は  
ほぼ同じなのですが、図の内の二枚だけが違ってい  
ます。永楽屋版(文政三(一八二〇)年刊, No. 46)  
は銅版画で、山形屋版(同年刊, No. 47)は木版画な  
のです。銅版画を作成したのは、名古屋の牧墨僊で、  
歌麿や北斎に絵を学んだ人物です。『解体新書』の  
図はすべて木版画でしたが、永楽屋版のように、図  
を模倣するだけではなく、その技法をも再現するよ  
うになったことは大変興味深いことです。このよう  
に、西洋の考え方を受け入れるだけでなく、技術を  
も採り入れることによって、徐々に近代化の下地が  
作られていたのです。

『Momotaro』(明治一八(一八八五)年刊, No.  
48) は、英語に訳していることからわかるとおり、  
海外向けに作られたものです。長谷川武二郎が考案  
したもので、多色刷りした紙に縮緬織のようなしわ  
を付けていることから、「ちりめんぼん」と呼ばれ  
ています。桃太郎のような昔話のほか、日本の習慣  
などを紹介する内容のものもあり、日本文化を海外  
に紹介するのに一役買ったものです。



# 古典で遊ぶ

## ■はじめに

**平** 安時代から、人々は謎々を作り、優劣を競って息長く楽しんできました。ことばや文字を用いた遊びは、絵画と結びつきながら、古典の世界をより豊かなものに展開させました。古典は読むものだけでなく、屏風、絵巻、かるたなど、いろいろな媒体（メディア）で遊んで楽しむものでもありました。ここでは、古典文学と遊びのさまざまな形についてご紹介します。

古典は読むものだけではなく  
遊んで楽しむもの！



扇絵の謎解きに興じる人々  
(『花鳥風月』)



## 『扇の草紙屏風』



# 『百人一首かるた』

ひやくにんいつしゅ



# 『伊勢物語かるた』

いせものがたり



# 『諸国領主物産骨牌』

しょこくりようしゅぶつさんかるた



『扇の草紙(草子)』は、扇形の画面に描かれた絵画と、その周囲に記された和歌と一緒に読み解く、遊戯性の高い作品群です。実際の扇絵を見せて画題の和歌を当てる遊びから生まれたとされ、室町後期から江戸前期にかけては絵巻や奈良絵本にも仕立てられ、冊子本のみでなく、絵巻、屏風、画帖など、さまざまな形状で伝存しています。

今回展示している『扇の草紙屏風』(No.49)は、奈良絵本の料紙を屏風に貼り付けたもので、一枚の料紙に三つの扇絵と和歌がちりばめられており、全部で三六の扇絵と和歌があります。その背景画として、季節ごとの柳が描かれており、四季折々の美しさを描き込もうとする意識がうかがえます。

「かるた」は、ポルトガル語の「カード」が語源とされ、ポルトガルより持ち込まれたゲームカードを模して「天正カルタ」などが作られました。一方で、貴族の間では貝合わせを発展させて貝の裏面に和歌を書き、これを合わせる貝覆いなどの遊びが室町期より流行し、『百人一首』や『伊勢物語』などを題材とした優美な歌が作られました。

『百人一首かるた』(No.50)江戸時代に爆発的な人気を誇った百人一首かるた。これは嫁入り道具として詠えたと思しきかるたで、歌と絵が絹に描かれています。華やかな舞楽の様が描かれた帙の内側も必見です。

『伊勢物語かるた』(No.51)『伊勢物語』の代表歌を上下の句札にし、札の上部に各段の異なる場面を描いた木版刷りのかるた。丹緑彩色が素朴な愛らしさを表現しています。

『諸国領主物産骨牌』(No.52)江戸中期以降に生まれた種々の絵合わせかるたの一つ。各地の名物と、その地を治める大名の石高とを対にしたかるたです。



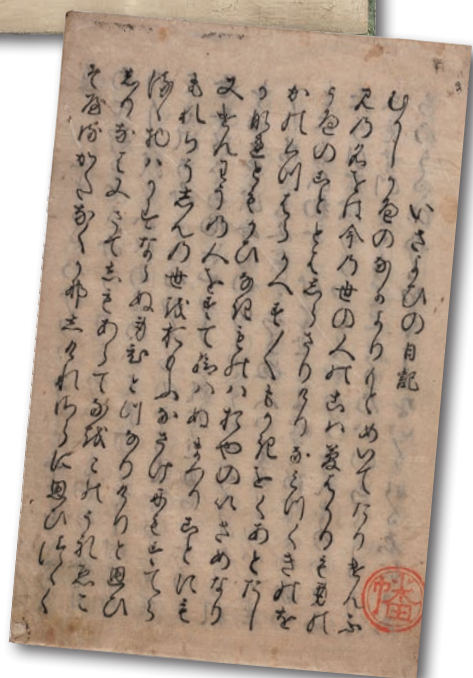
# 古典と旅をする

## ■はじめに

**古** 今東西、旅と書物は相性の良い組み合わせといえるでしょう。目的地までの行き方を記した旅行案内記、寺社の由来や見どころを解説した略縁起や絵地図、旅先での思い出を記した旅日記、実際に行かなくても読むだけで旅の体験ができる紀行文、架空の世界への旅を楽しむ物語など、江戸時代以前の日本においては、現代に勝るとも劣らない、豊かな旅の文芸文化が存在しました。

『十六夜日記』は、江戸初期に書写したもので、本文は流布本系の万治二（一六五九）年刊本に近く、やや奈良絵風の、淡彩が施された繊細な挿絵をもつ絵入写本です。江戸期に入ると、『十六夜日記』は流布本系統の本文を汲み古活字版として出版されます。No 54はその初期の刊行と目される一本です。

## 『十六夜日記』



『十六夜日記』（No 53）（No 54）

新しい政治都市鎌倉の誕生によって、東海道は整備され、京と鎌倉を往来する旅を素材として日記や紀行文が成立しました。『十六夜日記』は、冷泉為相と、為相の異母兄・二条為氏との間に起こった所領をめぐる訴訟のため、京から鎌倉へと下向した阿仏尼が目にした風景や、鎌倉滞在の出来事を記した紀行文です。No 53は、外題に『十六夜物語』とありますが、内容は阿仏尼の『十六夜日記』。江戸初期に書写したもので、本文は流布本系の万治二（一六五九）年刊本に近く、やや奈良絵風の、淡彩が施された繊細な挿絵をもつ絵入写本です。江戸期に入ると、『十六夜日記』は流布本系統の本文を汲み古活字版として出版されます。No 54はその初期の刊行と目される一本です。



# 『御曹子島渡』 おんぞうししまわたり



# 『諸原起類聚鏡』 しよげんきるいじゆうきよう



『御曹子島渡』(No.55)

源義経は秀衡に勧められ、はるか北方の糸ぞか島にある喜見城の、かねひら大王が持つ大日の法を求めて船旅に出ます。蝦夷が島、大手島、猫島、松島、牛

人島などの島々を通過し、七五日が経過。その後、「馬人島」「裸島」「女護の島」「小さ子島」の島々に上陸して島民たちと交流します。中でも、背の高さが一尺二寸、扇の丈ほどの小さ子島の人々は、

アイランドの作家・ジョナサン・スウィフトによる『ガリヴァー旅行記』を彷彿とさせ、実際に『御曹子島渡』が西洋に渡り、作品の題材とされたのではないかという説もあります。

『諸原起類聚鏡』(No.56)は、江戸後

期に主に武蔵国の寺院で刊行されていた略縁起を書写した一冊で、埼玉県川口市の寺院を中心として、遠くは飯能市の子ノ権現や静岡県御殿場市の輿袴地藏も含むなど広範囲に及んでいます。後半には「絵本塵・摘問答」「白隠禅師施行歌」「血盆経和讃」「金剛界五佛真言」も合写され、末尾には各地の順礼歌も記されています。余白には、本の持ち主によって各地の本尊の形や景観などが描かれていて、旅の絵日記のような風情も感じさせます。

知られざる豊かな旅の文芸文化







# 今年記念を迎える本

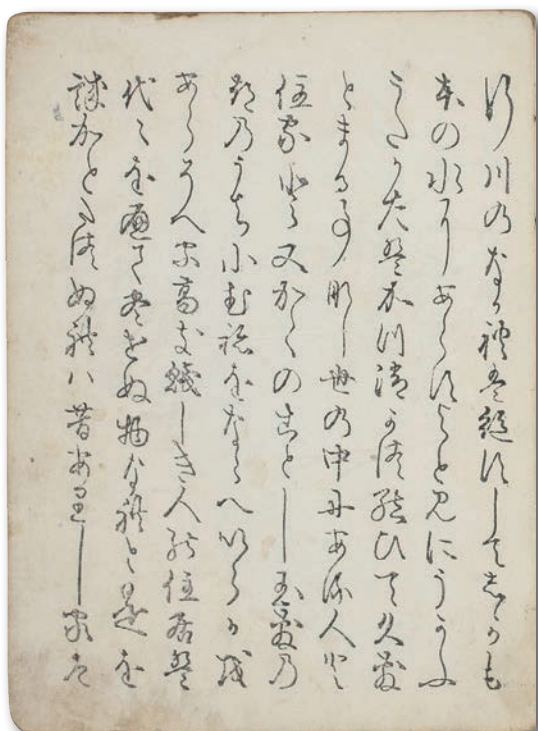
## ■はじめに

**国** 文学研究資料館は  
二〇二三年で五〇周年

を迎えます。ここでは、当館  
と同じように今年記念を迎え  
る古典作品をご紹介します。

## 『ほうじょうき 方丈記』

建暦二（一一二二）年三月の  
成立から **八一〇年**（No.60）



「行川のなかには絶すしてしかも本の水にあらず。よと  
みにうかふたかたはかつ消かつ結ひて久敷とまる事  
なし」で始まる人生の無常を説く古典の代表作品。

## 『せけんむねさんよう 世間胸算用』

元禄五（一六九二）年正月の刊行から  
**三三〇年**（No.61）



一年の総決算である大晦日に焦点を当  
て、江戸時代に生きる町人の経済生活  
を描いた浮世草子。

## 『とうかいどうちゅうひざくりげ 東海道中膝栗毛』

初編が刊行された享和二（一八〇二）年から  
**二二〇年**（No.62）



板面屋弥次郎兵衛と居候の喜多八の二人による珍  
道中を描いた滑稽本。

鴨長明、井原西鶴、十返舎一九。二〇二二年に記念を迎える本たち

# （ 新日本古典籍総合データベースの使い方 ）

展示している資料の多くは、新日本古典籍総合データベースから全文公開されています。ぜひ検索してみてください。

## 1 新日本古典籍総合データベース (<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>) を開く

このページ右下の QR コードからご覧頂けます。

データベースのトップページ

検索画面



## 2 検索画面に好きなキーワードを入れてみる

例) 絵本／画譜／源氏物語  
…… 書名や作者名、ジャンル名などで検索可能。  
→今回は「画譜」で検索。  
1,074 件ヒット！

ヒット数

タイトルごとに、  
さまざまなバージョン  
・所蔵先の資料が表示

さらに絞り込みをかけることができる



## 3 表示する資料を選ぶ

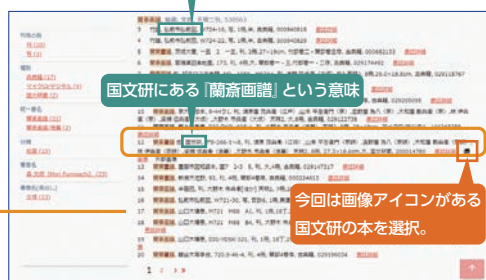
→長崎で医学と絵を学んだ  
もりらんさいが 森蘭斎筆の『蘭斎画譜』に注目。  
22 件がヒット。  
画像データがある資料には  
画像アイコンがある。

さまざまな所蔵先に点在する  
『蘭斎画譜』が表示される。  
それぞれ状態などが異なる。

所蔵先が表示される

国文研にある『蘭斎画譜』という意味

今回は画像アイコンがある  
国文研の本を選択。



## 4 画像を表示し、ダウンロードする

国文研蔵の『蘭斎画譜』の  
画像ページ  
<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200014780/viewer/32>

好きなコマを選択すると、画像の拡大をして観察することができる。

「CC BY-SA 4.0」表記がある資料は、ダウンロードのうえ複製制作、加工も可能。  
(所蔵先により利用規定が異なる)

「タグ」検索で、似た資料が検索できる。



資料の詳細な情報を記載。

「CC BY-SA 4.0」表記。国文研の資料には全て付いている。

## 「新日本古典籍総合データベース」とは？

複数の機関が所蔵する古典籍の情報や、その高精細画像を一度に検索できるポータルサイト（無料）です。国文学研究資料館が、さまざまな機関の協力のもとで構築しています。

## なにができるの？

- WEB 環境さえあれば、国内外のあらゆる機関に所蔵されている古典籍画像に、どこからでもアクセス可能。
- そのため、たとえば別の場所（日本とイタリアなど）に所蔵されている資料を、同じ画面上に表示して、比較することができます。
- 公開されている画像のうち、「CC BY-SA4.0」の表記があるものは、クレジット表示をするだけで、複製や改変を含め、自由にご利用いただけます。

（「CC BY-SA4.0」表記がないものについては、資料ごとに利用条件をご確認ください）  
クレジット表記の方法について→ <https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/about.html>



新日本古典籍総合データベース ▶ <https://kotenseki.nijl.ac.jp/>



## 第二章

# 国文研のこれまでとこれから



# 国文研のこれまで

## 昭和



1970	1960	1950
47年 (1972) 9月8日 国文学文献資料調査委員会開催	41年 (1966) 11月 日本学術会議から政府への勧告が出される。	24年 (1949) 3月 国立史料館設置に関する請願を第5回 通常国会に提出、採択【1】
47年 (1972) 5月1日 国文学研究資料館創設。市古貞次館長就任	42年 (1967) 5月 国語国文学研究資料センター設立推進連絡協議会 設立	26年 (1951) 1月 国が品川区戸越の三井文庫の敷地購入【2】
46年 (1971) 7月23日 国立史料館緊急評議員会にて国文学研究資料セン ターへの史料館併置承認	43年 (1968) 3月 『史料館研究紀要』第1号刊行（現在の『国文学研 究資料館紀要アーカイブズ研究篇』）	26年 (1951) 5月 文部省史料館設置【3】
46年 (1971) 4月 国文学研究資料センター設立準備調査会発足	38年 (1963) 頃 日本学術会議において国語国文学研究センター設 置の提案が出される。	27年 (1952) 3月 『史料館所蔵史料目録』第1集刊行（現在の『史料 目録』）
45年 (1970) 9月17日 学術審議会、国文学研究資料センター（仮称）を 緊急に設置するよう文部大臣に報告【5】配布資料	27年 (1952) 9月 第1回近世史料取扱講習会開催（現在のアーカイ ブズカレッジ）【4】	



2

### 国文学研究資料センター（仮称） 設置についてお願い

国文学の古典は、わが国民文化の精神として世界に誇るべきものであり、その研究は日本文化の正しい認識と新しい発展のために、きわめて重要なものである。

しかるに、その資料の保存や利用は、現在では不十分・不満足な状態にある。例えば、震災被害による損失はいうまでもない。また、戦後社会の変動による所在の不明や国外流出等のことが生じ、時には保存管理が不十分のまま朽損・虫害・放佚の恐れもある。その上、全国各地に散在する資料を調査閲覧するのに非常に困難不便があり、研究の能率が十分にあげられないうらみがある。

かかる不安と不便にかんがみ、われわれは「国文学研究資料センター（仮称）」の設置を強く希望するに至った。国語国文学界の二十数学会は一致して本センターの設立推進に協力しており、一日も早く本センターの設置を実現して、その成果を国民に還元することは、今日の急務であるとともに、後代への国民的使命でもあると信ずる。また、海外に目を転ずれば、日本文学研究は近年いよいよさかんて、これら研究者との情報交換による国際的文化交流への貢献は、きわめて大きい。

本センターの設置について、日本学術会議から内閣総理大臣に勧告されたのは、昭和四十四年十二月である。それと前後して、われわれはこの「連絡協議会」を結成し、右に述べたように積極的に活動を開始した。その第一として、本センター設置の際には収集すべき文献資料のヤブフル調査を行ない、第一次「文献目録一覧表」（古代から近世までの四一九点）を本年四月、六月に文部省に提出した。この収集計画は概算として約六万点（奥本等を含め約五十万点）の推定である。

学術審議会学術研究体制特別委員会は、日本学術会議から設立勧告された研究所のうち、本センターを最優先的にとりあげることを認め、この性格に国文学研究の情報センターの意義を重視し、電算機等の導入による処理体制を加え、基本構想をまとめ、文部大臣に報告した。これに基づいて、国文学の古典の資料の保存・収集および共同利用・情報提供のための本センターの設置は緊急を要し、今日その努力を怠ることは、悔いを永久にのこすこととなる。わが国においてはじめて実現し得るこの国家的事業を促進するため、広く国民各方面のご支援ご助力をお願いする次第である。

昭和四十五年十月

### 国文学研究資料センター設立推進連絡協議会

事務局 東京都豊島区東目黒一〇四八号  
国学院大学日本文学部二(目黒教養)研究室内



4

5





10 写真は 1990 年頃の電算機室



9



8

## 1980

58 年 (1983)	11 月 5 日	システム第二期としてデータベース構築と研究支援システム実現化開始
57 年 (1982)	10 月 29 日	創立一〇周年記念式典
57 年 (1982)	4 月 1 日	小山弘志館長就任
55 年 (1980)	4 月 1 日	古典籍総合目録作成事業開始
55 年 (1980)	3 月 31 日	『調査研究報告』第 1 号刊行
53 年 (1978)	1 月 4 日	電算機システム稼働 [10]
52 年 (1977)	11 月 10 日	第 1 回国際日本文学研究集会開催 (11 月 10 日まで)
52 年 (1977)	7 月 25 日	国文学研究資料館開館。開館特別展示開催 (7 月 30 日まで) [9]
52 年 (1977)	6 月 24 日	開館式典 [8]
52 年 (1977)	3 月 28 日	国文学研究資料館西館竣工 [7]
50 年 (1975)	3 月 25 日	『国文学研究資料館紀要』第 1 号刊行 (現在の『国文学研究資料館紀要文学研究篇』)
48 年 (1973)	10 月 2 日	第 1 回全館教官会議開催 (現在の教員連絡会)
48 年 (1973)	3 月 29 日	国文学研究資料館東館竣工
47 年 (1972)	12 月 25 日	『国文学研究資料館報』第 1 号刊行 (現在の『国文学研究ニュース』)
47 年 (1972)	11 月 9 日	第 1 回公開講演会開催 [6]
47 年 (1972)	10 月 1 日	国文学研究資料館東館工事着工



7



6



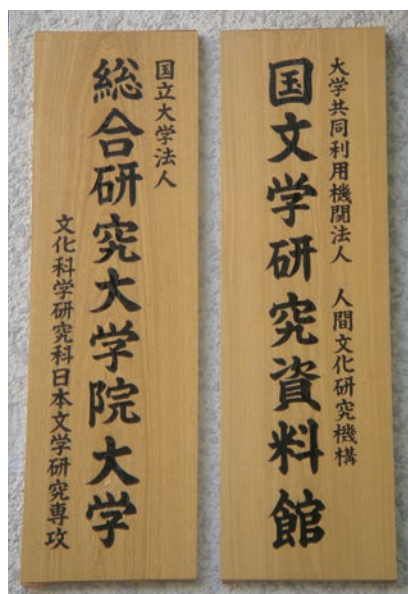
14



12

平成

2000		1990
62年 (1987)	4月1日	データベース(マイクロ資料目録和古書目録)オンライン検索サービス開始
元年 (1989)	8月24日	移転候補地が立川に決定
3年 (1991)	12月7日	史料館四〇周年記念祝賀会
4年 (1992)	4月1日	国文学論文目録データベースのオンライン検索サービス開始
4年 (1992)	11月6日	創立二〇周年記念式典
5年 (1993)	4月1日	佐竹昭廣館長就任
9年 (1997)	4月1日	松野陽一館長就任
12年 (2000)	4月	ホームページ正式運用開始〔11〕
13年 (2001)	11月30日	史料館五〇周年記念式典
14年 (2002)	11月29日	創立三〇周年記念式典〔12〕
15年 (2003)	4月1日	総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻が設置〔13〕
16年 (2003)	4月1日	法人化により大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館に改組。4研究系(文学資源研究系、文学形成研究系、複合領域研究系、アイカイブズ研究系)4事業部(調査収集事業部、電子情報事業部、普及連携活動事業部、情報資料サービス事業部)設置
17年 (2005)	2月8日	立川新館起工式〔14〕
17年 (2005)	4月1日	伊井春樹館長就任



13



11





# 令和



16



15

2020	2010
4年(2022)	18年(2006)
4月1日	12月27日
古典籍データ駆動研究センター設置〔21〕	「日本古典籍総合目録」データ公開
3年(2021)	19年(2007)
4月1日	3月
渡部泰明館長就任	国文学研究資料館ロゴマーク選定〔15〕
2年(2020)	19年(2007)
11月1日	4月1日
日本古典籍研究国際コンソーシアム設立〔20〕	賛助会員制度(友の会)創設
29年(2017)	20年(2008)
4月1日	3月1日
ロバートキャンベル館長就任	立川市緑町の現在地に移転〔16〕
26年(2014)	20年(2008)
4月1日	4月1日
古典籍データベース研究事業センターを 古典籍共同研究事業センターに改組〔19〕	新図書館サービス再開
25年(2013)	20年(2008)
4月1日	5月27日
古典籍データベース研究事業センター設置	移転記念式典〔17〕
22年(2010)	20年(2008)
4月1日	8月11日
4研究系を研究部に統合	第1回日本古典文学学術授賞式〔18〕
21年(2009)	21年(2009)
4月1日	4月1日
今西祐一郎館長就任	



20



17



21



19



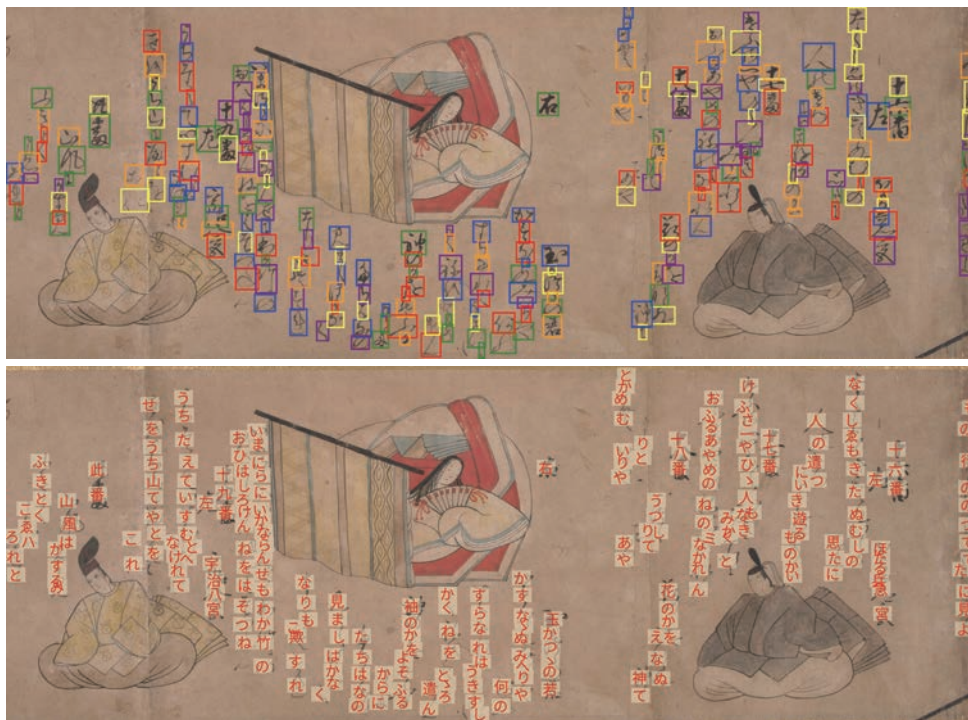
18

# 日本語の歴史的典籍の国際共同研究 ネットワーク構築計画

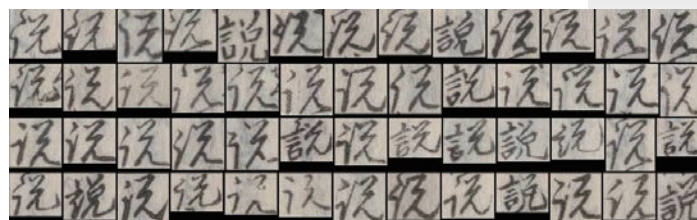
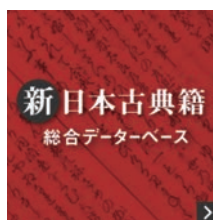
歴史的典籍 NW 事業において 30 万点の日本語の歴史的典籍の全冊画像を、オープンデータとして整備しています。こうしたデータの蓄積から、CODH など他機関との共同研究により、テキスト化のための AI の認識技術開発など、さまざまな取り組みを行っています。

## ■ AI を用いた認識技術

(人文学オープンデータ共同研究センター (CODH) <http://codh.rois.ac.jp/> 提供)

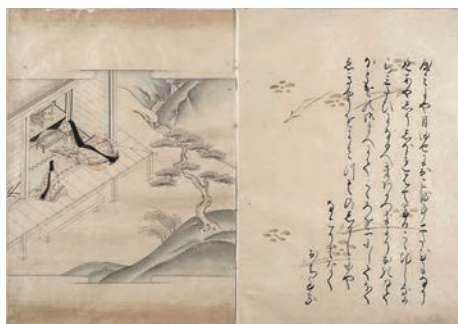
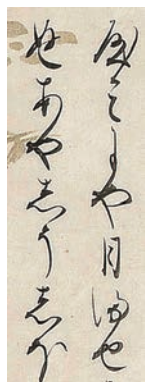


## ■ 新日本古典籍総合 データベース。 唯一の日本古典籍ポータルサイト <https://kotenseki.nijl.ac.jp/>

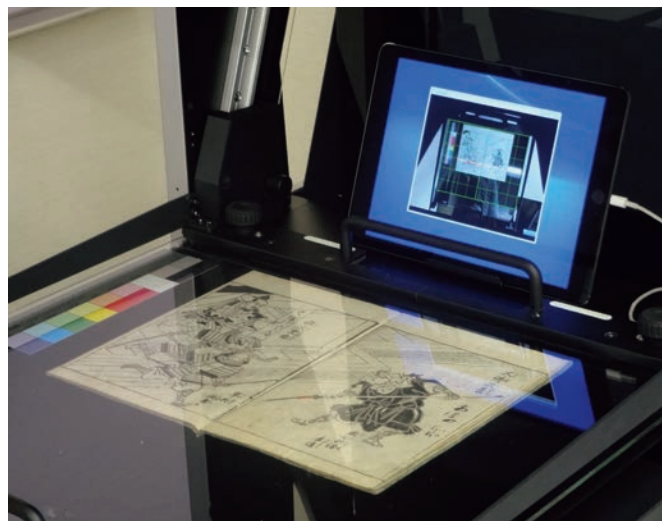


くずし字データセット

詳しい使い方  
については P54 を  
ご覧ください！



『十六夜日記』 (<https://doi.org/10.20730/200003074>)



日本古典籍の撮影風景



# データ駆動による課題解決型人文学の創成プロジェクト

日本語の歴史的典籍に記録されて蓄積されてきた膨大な情報、またモノとしての書物自体が蓄積してきた物質的な情報をめぐって行われる人文学分野の研究成果を、自然科学を含む多分野の研究機関と連携して、現代社会の抱えるさまざまな課題解決のために活用することを目指しています。

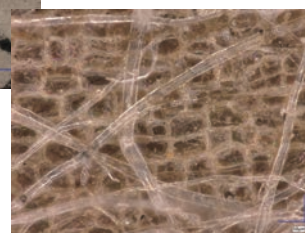
- 国立極地研究所との共同による、日本語の歴史的典籍に記載されたデータを利用した、天体や地球規模の環境問題に関わる研究。



- モノ（物質）の分析から有益なデータを見出す、マテリアル分析。



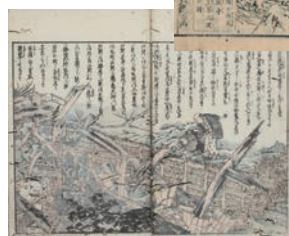
高解像度デジタル  
マイクロスコープで  
拡大した  
『いろはたんか』



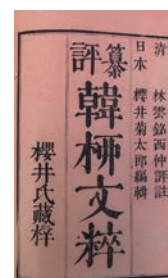
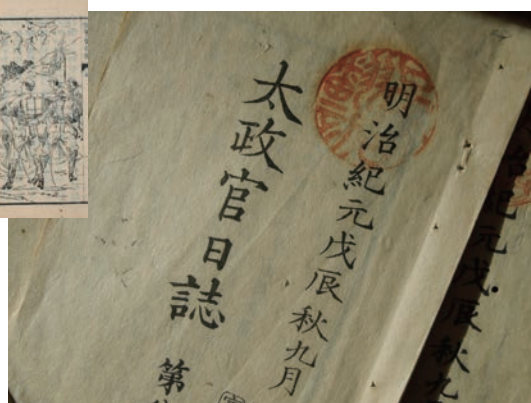
(<https://doi.org/10.20730/200016816>)

- 「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」のビッグデータの構築を基盤とした、データ収集の拡大。

『さでんしんろく 佐賀電信録』



『あんせいけんもん し 安政見聞誌』



『纂評 韓柳文粹』

『だじょうかんにつし 太政官日誌』

# 出品リスト

※請求記号のないものは現在整理中

No	名 称	時 代	員 数	請求記号
<b>第一章 〈推し〉の一冊</b>				
1	毎月抄	室町時代写	一軸	11-127
2	(素庵本三十六歌仙)	〔寛永頃〕刊	一冊	サ2-35
3	吉田臥竜軒詩文歴代詩文／六	江戸前期写	一軸	85-6
4	定家物語	慶長一二年写	一幅	ミ1-162
5	宇津保物語	天保一五年刊	三〇冊	サ4-91
6	源氏かるた	江戸後期写	一箱	98-1060
7	狭衣	江戸前期刊	一冊	タ4-51
8	阿仏の文	室町前期頃写	一冊	タ5-128
9	道行集	江戸前期刊	一冊	ナ7-87
10	無門関	寛永九年刊	一冊	ナ3-61
11	老のすさみ	室町後期写	一軸	19-3
12	常盤鞍馬破	江戸後期写	一冊	45-73
13	西山物語	明和五年刊	一冊	ナ4-746
14	随園食单	清・嘉慶元年刊	二冊	50-20
15	御もんづくし	寛永一二年刊	一冊	MY-1201-001
16	泰平万代大成武鑑	宝暦一二年刊	四冊	MY-1201-117
17	袖玉武鑑	万延二年刊	一冊	MY-1201-286
18	絵本武者備考	寛延二年刊	三冊	ヤ8-76
19	大阪書田会近世初期名作標本集	明治四五年撰	一帖	ラ3-31
20	古戦短歌	江戸前期写	一冊	22-263
21	薄遊漫載	文化一一年刊	二冊	ナ8-342
22	金色夜叉(縮刷一八〇版)	大正一三年刊	一冊	ナ4-997
23	武蔵国絵図	江戸前期	一鋪	27M-2
24	保字金引替群集絵図面	元治元年写	一冊	26U/47
25	諸用扣(留)	文化一一〇天保一四年	二八冊	30J/1504
26	渋澤栄一愛用の帽子	明治〰昭和頃	四点	37TF/56-60・37TF/56-7
27	招魂社綴	明治二三〰二七年作成	一綴	24N/1325
28	絵本磯馴松	元文二年刊	一冊	49-245
<b>第二章 国文研をひらく</b>				
29	内裏名所百首	江戸後期写	一箱	ヤ8-334
30	画本虫撰	天明八年刊	二冊	99-127
31	銀世界	江戸中期刊	一帖	99-210
32	詩文	江戸前期写	一軸	65-8
33	出水堤百間程切込ノ図	天保一五年写	一鋪	30J/1483-7
34	源氏物語	〔鎌倉中期〰室町期〕写	一六冊	99-165
35	渋沢栄一日記	慶応四〰昭和六年写	三〇冊	37TGH/955-1~30
36	土方歳三金子借用証文	慶応三年写	一通	26L/611
37	中朝事実	寛文九年写	二冊	22-1
38	住吉物語	江戸前期写	三冊	99-39
39	大橋の中将	江戸前期写	三冊	99-209
40	徒然草	江戸初期刊	二冊	99-93
41	伊勢物語	江戸初期刊	二冊	98-406
42	舞の本	江戸前期刊	三六冊	99-211
43	阿弥陀胸割	〔慶長〰元和頃〕刊	一冊	99-91
44	天工開物	明和八年刊	九冊	49-391
45	Heelkundige onderwyzingen	一七四一年刊	一冊	99-215
46	瘍科精選図解(永楽屋版)	文政三年刊	二冊	99-213
47	瘍科精選図解(山形屋版)	文政三年刊	二冊	99-214
48	Monotaro	明治一八年刊	一冊	ナ8-38:1
49	扇の草紙屏風	江戸初期写	六曲一隻	99-151
50	百人一首かるた	江戸中期写	一箱	ヤ8-331
51	伊勢物語かるた	江戸中期刊	一箱	98-1024
52	諸国領主物産骨牌	江戸後期写	一箱	MX-301-13
53	十六夜日記	江戸初期写	二冊	99-21



54	十六夜日記	江戸初期刊	一冊	99-212
55	御曹子島渡	江戸中期刊	一冊	96-814-4
56	諸原起類聚鏡	江戸後期写	一冊	29-144
57	大殿様御湯治之記	文政六年写	一冊	26A/へ998
58	紀伊国日高郡天音山道成寺	江戸後期刊	一枚	
59	上州草津温泉之図	江戸後期刊	一枚	
60	方丈記	〔慶長一五年以前〕刊	一冊	99-168
61	世間胸算用	元禄五年刊	五冊	ナ4-954
62	道中膝栗毛	享和二〇文化一一年刊	一八冊	ナ4-61
<b>第三章 国文研のこれまでとこれから</b>				
63	国文学研究資料館中央棟新営 その他工事	寄せ書き		
64	国文学研究資料館	関係者名簿		
65	定礎記念 初期の当館概要 (1974年～1976年)			
66	定礎に入っていた記録物の箱			

## 参考文献一覧

- ・土屋喬雄『渋沢栄一』（吉川弘文館人物叢書、一九八九年）
- ・『鉄心斎文庫所蔵 伊勢物語図録 第四集 伊勢物語かるた・王朝へのあこがれ』（鉄心斎文庫伊勢物語文華館、一九九三年）
- ・国文学研究資料館史料館編『史料館収蔵史料総覧』（名著出版、一九九六年）
- ・西尾市岩瀬文庫編『岩瀬文庫の一〇〇点 創立一〇〇周年記念特別展』（西尾市岩瀬文庫、二〇〇八年）
- ・田淵句美子編『十六夜日記白描淡彩絵入写本・阿仏の文』（勉誠出版、二〇〇九年）
- ・池田和臣「国文学研究資料館蔵 鎌倉時代古写本 源氏物語十六帖（榊原本）」（国文学研究資料館影印叢書4『源氏物語 榊原本一〇五』勉誠出版、二〇一三年）
- ・中尾友香梨・井上敏幸著『文人大名鍋島直條の詩箋巻』（佐賀大学地域学歴史文化研究センター、二〇一四年）
- ・安原真琴「新出・国文学研究資料館蔵『扇の草子』屏風―書誌と翻刻」（『立教大学日本文学』一一一号、二〇一四年一月）
- ・小秋元段「解説」（国文学研究資料館影印叢書7『嵯峨本 方丈記』、勉誠出版、二〇一六年）
- ・齋藤真麻理「渡海の絵巻―いけのや文庫蔵『御曹子島渡り』」（『国文学研究資料館紀要 文学研究篇』四四号、二〇一八年三月）
- ・石川透「文献としての奈良絵本・絵巻」（『日本文学』六九―七号、二〇二〇年七月）

創立 50 周年記念展示

こくぶんけん〈推し〉の一冊



主催：国文学研究資料館

発行日：2022 年 4 月 28 日

発行：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館

編集：入口敦志・西村慎太郎・北村啓子・糸 汐里・黄 昱

制作：文学通信

©2022 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館

本書の全部または一部を無断にて転載・複製することを禁じます。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町 10-3

Tel : 050-5533-2984

E-mail : [jigyoku@nijl.ac.jp](mailto:jigyoku@nijl.ac.jp)

Web : <https://www.nijl.ac.jp>